

令和6年版

消 防 年 報

令和7年度基本姿勢

「地域の安全・安心を目指し
消防行政サービスの向上」

相馬地方広域消防本部

(令和7年6月刊行)

相馬地方広域消防訓

- 一 消防の使命に生きがいを感じ
- 一 民生安定に寄与しよう
- 一 和衷協同して組織力の効率を高め
防災体制を確立しよう
- 一 広く消防情報を収集して
先見的業務を推進しよう
- 一 知と技を備え規律を厳正にして
親愛される消防人になろう
- 一 職員相互信頼のもと
明朗清新な職場環境をつくろう

目 次

総 括

一目統計	1
相馬地方広域市町村圏域の概要	2
相馬地方広域消防沿革	4
相馬地方広域消防歴代管理者・消防長等一覧表	22
相馬地方広域消防組織図	24
相馬地方広域消防現勢分布図	25
相馬地方広域市町村圏勢の推移	26
消防予算の推移	26
消防施設等整備状況	26
消防庁舎	27
職員配置状況	27
階級別年齢状況	28
職員市町村別居住状況	28
階級別・勤続年数別職員構成	29
年度別職員研修状況	30
職員特殊技能その他の資格取得状況	31
消防相互応援協定状況	32

予 防 統 計

防火対象物の現況	33
防火対象物立入検査状況	34
甲種防火管理者新規（再）講習実施状況	35
防火管理者の選任及び消防計画の届出状況	36
防火対象物定期点検報告制度実務状況	37
防火対象物階層別調	38
市町村別建築同意処理状況	39
所属別建築同意処理状況	39
用途別建築同意処理状況	40
消防用設備等の着工・設置届出件数	41
火災予防条例に基づく届出件数	42

危 険 物 統 計

市町村別危険物施設数	43
数量別危険物施設数	44
類別危険物施設数	45
施設別許可・完成検査・廃止届出件数	46

火 災 統 計

火災発生状況	47
市町村別発生件数	47
市町村別損害額	47
市町村別火災発生状況	48
月別火災発生状況	49
月別火災発生件数（グラフ）	50
覚知別火災件数（グラフ）	50
時間別火災発生件数（グラフ）	51

原因別火災件数（グラフ）	51
曜日別火災発生件数（グラフ）	52
過去5年間の火災発生状況	52
警 防 統 計	
消防活動状況(1)	53
消防活動状況(2)	54
消火活動状況	55
救助活動状況	56
訓練実施状況	57
消防車両の配置状況	58
消防資器材の保有状況	59
通信系統図	62
消防救急デジタル無線整備概要	63
通信施設状況	64
無線機配備状況(アナログ無線)	64
無線機配備状況(デジタル無線)	65
消防水利の現有状況	67
救 急 統 計	
相馬地方救急現勢分布図	68
救急出場件数及び搬送人員	68
救急隊別事故種別出場件数	69
傷病程度別搬送人員数	69
年齢区分別搬送人員数	69
曜日別出場件数	70
時間別出場件数	70
覚知別出場件数	70
救急隊員の行った応急処置状況	71
ドクターヘリ要請概要	72
高速道路関連事故対応状況	73
過去10年間の救急業務の推移	75
救命講習会の実施状況	76
消防団・関係団体等	
相馬地方広域市町村消防団の組織	77
階級別実員数	78
消防車両の現況	78
福島県消防協会相馬支部顧問	79
福島県消防協会相馬支部役員	79
消防関係団体等の結成状況	80
市町村別消防クラブ等結成状況	85

一 目 統 計

※ 令和7年4月1日現在

<p>世帯</p>  <p>一世帯当たり 2.29人</p> <p>人口 99,186人 世帯 43,277</p>	<p>人口密度</p>  <p>1km²当たり 113.6人</p> <p>面積 873.2km²</p>	<p>消防費</p>  <p>住民1人当たり 23,815円</p> <p>当初予算 2,362,175千円</p>	<p>消防職員</p>  <p>住民661.2人に 1人</p> <p>定員 156人 実員 150人</p>	<p>消防団員</p>  <p>住民57.5人に 1人</p> <p>定員 2,424人 実員 1,725人</p>
---	--	---	---	---

※ 令和6年中

<p>火災</p>  <p>7.6日に1件</p> <p>件数 51件</p>	<p>火災1件当たりの損害額</p>  <p>1件当たり 3,426千円</p> <p>損害額 174,739千円</p>	<p>火災による死傷者</p>  <p>年間 7人</p> <p>死者 2人 負傷者 3人</p>
---	---	--

※ 令和6年中

<p>救急出場</p>  <p>1日に13.3件</p> <p>4,858件</p>	<p>救助出動</p>  <p>6.2日に1件</p> <p>58件</p>	<p>緊急通報受信回数</p>  <p>1日に24.1回</p> <p>8,794回 (うち119は8,461回)</p>
---	---	--

相馬地方広域市町村圏域の概要

1 圏域の構成

相馬市・南相馬市（旧原町市、旧小高町、旧鹿島町が合併）を中心に、新地町・飯舘村の2市1町1村をもって構成し、その圏域は東西に33km、南北に44km、総面積873.2㎢、人口は99,186人（令和7年4月1日現在）である。

また、この圏域は過去相馬藩6万石の領地として繁栄してきた歴史ある地域であり、運命共同体的な絆の強い人間性を有している。

2 圏域の位置・環境

福島県の太平洋沿い北端部に位置し、圏域中心都市の相馬市、南相馬市から県都福島市まで約60km、仙台市まで60～80kmの距離にある。

地形は、圏域西部を南北に縦走する阿武隈高地の尾根となり、この尾根から丘陵が複雑に東走し、一部は海岸まで達している。東走する丘陵の間には河川が東流し、その流域にはそれぞれデルタ状の平地が形成され、市街地集落と耕地が展開している。太平洋沿岸は単調な南北線で形成され、比較的遠浅の海が広がる。

昭和58年から相馬市と新地町を対象に地域振興整備公団の事業として、相馬中核及び内陸工業団地の整備が行われてきた。加えて、平成27年3月に常磐自動車道が全線開通、令和3年4月には東北中央自動車道が相馬福島間で全線開通し、大中小様々な企業の工場誘致に拍車がかかり、地域産業や観光の活性化が図られた。また救急医療体制の広域化により、さらなる安心安全な住民生活の確保が期待される。

3 圏域の特色

相馬地方は、相馬市を中心として全国に有名な民謡の宝庫であり、さらに国指定重要無形民俗文化財の「相馬野馬追」は、一千有余年の歴史と伝統を誇り、令和7年から女性騎馬武者の出場条件が緩和され、歴史と伝統も時代とともに変化がみられ、圏域内市町村が一体となって執行されている3日間の祭典は、広域行政システムの創始といっても過言ではない。

また、平成23年3月11日（金）14時46分頃に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）では、震度6強の激しい揺れと津波が太平洋沿岸部を襲い、当圏域の沿岸部は壊滅状態となり、多くの尊い命が奪われた。更に東京電力福島第一原子力発電所の事故は、放射性物質の大気放出により多くの住民が避難を余儀なくされるなど、世界でも類を見ない原子力災害となった。圏域の一部は避難指示区域となり、現在も南相馬市及び飯舘村に帰還困難区域が残るものの、南相馬市の沿岸地域には、近未来を担うロボットの研究施設が造られ、世界各地から企業が参入し敷地内において様々な施設を活用した研究が日々行われており、震災からの復旧復興がさらに進んでいる。

4 位置図及び県内消防本部管轄区域



5 圏域の面積、世帯数、人口

(令和7年4月1日現在)

区分 市町村	面積 (km ²)	世帯数	人口		
			男	女	計
相馬市	197.8	14,214	15,942	16,033	31,975
南相馬市	398.6	24,345	27,581	27,795	55,376
新地町	46.7	2,926	3,678	3,699	7,377
飯舘村	230.1	1,792	2,263	2,195	4,458
合計	873.2	43,277	49,464	49,722	99,186

※ 人口及び世帯数は住民基本台帳に基づく。

相馬地方広域消防沿革

- 昭和47. 4 相馬市、原町市、小高町、鹿島町、新地町、飯館村の2市3町1村からなる相馬地方広域消防が発足、1本部、2署4分署を設置する。 **1972**
消防職員120名 消防ポンプ自動車10台 救急自動車3台
指令車1台 指揮車2台 無線局6局 移動局17局
初代消防長に渡邊清憲が就任する。
9 化学消火剤（エアフォーム）を2,000㍓備蓄する。
11 消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）2台を購入し、新地分署、飯館分署に配置する。
- 昭和48. 2 危険物火災に備え、化学消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽1,500㍓、薬槽500㍓）を購入し、消防本部に配置する。 **1973**
4 第2代消防長に岸 近が就任する。
原町消防署が橋本町から、消防本部へ移転併設となる。
双葉地方広域市町村圏組合と消防相互応援協定を締結する。
消防本部内の機構改革を行い、庶務係を総務係に、警防救急係を警防係に名称を変更する。
6 指揮車（ニッサンブルーバードU）5台を購入し、相馬消防署、小高分署、鹿島分署、新地分署、飯館分署に配置する。
原町消防署にマイクロ型救急自動車を配置する。
9 飯館分署に救急自動車を配置する。
伊達地方消防組合と消防相互応援協定を締結する。
消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）を購入し、鹿島分署に配置する。
- 昭和49. 1 亙理地区消防事務組合と消防相互応援協定を締結する。 **1974**
6 仙南地域広域行政事務組合と消防相互応援協定を締結する。
8 第24回福島県水防演習が鹿島町の真野川にて実施される。
空気充填機1台を購入し、消防本部に設置する。
9 昭和49年度福島県総合防災訓練が原町市で実施される。
12 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽2,000㍓）1台を購入し、相馬消防署に配置する。
- 昭和50. 8 第5回福島県下消防職員親善卓球大会を相馬市（相馬女子高）で開催する。 **1975**
11 相馬地方防火管理連絡協議会が設立される。
12 民間クレーン業者（松島、山王）と協力契約する。
- 昭和51. 4 第3代消防長に吉田嘉基が就任する。 **1976**
相馬地方消防設備保守協会が設立される。
7 指揮車（ニッサンブルーバード）を購入し、原町消防署に配置する。
10 消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）を購入し、相馬消防署に配置する。
- 昭和52. 4 消防本部の機構改革で、総務課、消防課の2課制とする。 **1977**
6 救助訓練塔を消防本部前庭に仮設する。
10 消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）を購入し、原町消防署に配置する。
12 日本損害保険協会より救急自動車（トヨタ2B型）が寄贈され、相馬消防署に配置

する。

- 昭和53. 5 東京海上火災保険会社より広報車（トヨタカーナバン）が寄贈され、**1978**
原町消防署に配置する。
- 7 職員定数条例の一部を改正、3名の増員を図り123名とする。
- 8 広報車1台（トヨタコロナバン）を購入し相馬消防署に配置する。
指令車（ニッサンセドリック）を購入し、消防本部に配置する。
- 9 救急自動車（トヨタ2B型）を購入し、原町消防署に配置する。
- 11 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽2,000ℓ）を購入し、小高分署に配置する。

- 昭和54. 10 新地分署庁舎の事務室（42㎡）を増築する。**1979**
相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 11 相馬地方少年婦人防火委員会が設立された。
- 12 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽2,000ℓ）1台、消防ポンプ自動車2台を
購入し、水槽付消防ポンプ自動車を鹿島分署に、消防ポンプ自動車を相馬消防署と
原町消防署に配置する。

- 昭和55. 4 第4代消防長に泉 茂が就任する。**1980**
職員定数条例を一部改正、1名の増員をはかり124名とする。
- 8 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（トヨタランドクルーザーA1級）が寄贈さ
れ、原町消防署に配置する。
- 9 昭和55年度福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。
- 11 日本防火協会より相馬地方婦人防火クラブに防火広報車（ニッサンキャラバン）が
寄贈される。
相馬地方広域消防検閲式を実施する。

- 昭和56. 2 圏域内関係者と相馬地方広域消防の間で、ガス漏れ及び爆発事故防止対**1981**
策に関する覚書を締結する。
日本損害保険協会より救急自動車（トヨタ2B型）が寄贈され、飯館分署に配置する。
- 3 福島県共済農業協同組合連合会より救急自動車（ニッサン2B型）が寄贈され、原町
消防署に配置する。
- 6 相馬郡医師会の協力により救急I課程講習会を開催、職員45名、双葉広域消防職員
17名が受講し資格を取得する。
- 7 職員定数条例を一部改正、2名を増員し126名とする。
- 10 第9回福島県下消防職員親善剣道大会を原町市（県営原町体育館）で開催する。
- 11 消防器具搬送車（いすゞバン）2台、査察車（ニッサンパルサー）1台を購入し、相馬
消防署、原町消防署に器具搬送車、消防本部に査察車を配置する。
昭和56年度福島県相双地方防災訓練を小高町で実施する。

- 昭和57. 4 職員定数条例を一部改正、2名増員し128名とする。**1982**
- 6 指揮兼広報車（ニッサンパルサー）2台を購入し、相馬消防署、鹿島分署に配置する。
- 9 昭和57年度福島県総合防災訓練が原町市で実施される。
- 10 消防ポンプ自動車（ニッサンBD1型）を2台購入し、新地分署、飯館分署に配置す
る。

- 昭和58. 4 第5代消防長に吉田信雄が就任する。**1983**
- 6 指揮兼広報車（ニッサンパルサー）2台を購入し、原町消防署、飯館分署に配置（更

新)する。

- 9 救急自動車（トヨタ 2 B 型）を購入し相馬消防署に配置(更新)する。
- 1 2 昭和 5 8 年度福島県相双地方防災訓練が鹿島町で実施される。
山之内製薬株式会社より救急自動車(ニッサン 2 B 型) 1 台が寄贈され、小高分署に配置する。
小高分署で救急業務を開始する。

1984

- 昭和 5 9 . 1 消防無線電話基地局 2 基（新地分署、飯館分署）、移動局 1 基、携帯局 1 0 基を整備する。
- 2 相馬地方婦人消防大会が小高町で開催される。
- 6 鹿島町藤加工所より救難用ゴムボートが寄贈され、鹿島分署に配置する。
相馬地方広域消防職員観閲式を実施する。
- 1 0 救急自動車（トヨタ 2 B 型）を 1 台購入し、鹿島分署に配置する。
鹿島分署で救急業務を開始する。
- 1 1 消防ポンプ自動車（トヨタ BD 1 型）を購入し、鹿島分署に配置（更新）する。

1985

- 昭和 6 0 . 2 日本自動車工業会より救急自動車（トヨタ 2 B 型）が寄贈され、新地分署に配置する。
新地分署で救急業務を開始する。
- 4 組織機構改革し、相馬消防署に鹿島分署、新地分署を、原町消防署に小高分署、飯館分署を編入する。
職員定数条例を一部改正、2 名の増員を図り 1 3 0 名とする。
- 8 救命ボートを購入し、相馬消防署に配置する。
- 1 1 相馬地方幼年消防大会が原町市（県営原町体育館）で開催される。
- 1 2 指令車（ニッサンローレル）を購入し、消防本部に配置（更新）する。
指揮兼広報車（トヨタカローラバン）を購入し、原町消防署に配置(更新)する。

1986

- 昭和 6 1 . 8 日本消防協会より救急自動車（トヨタ 2 B 型）が寄贈され、原町消防署に配置する。

1987

- 昭和 6 2 . 1 消防無線電話 2 基購入、救急自動車（原町消防署）、器具搬送車(相馬消防署)に配置する。
相馬地方奥様防災博士連絡協議会が設立される。
- 3 消防本部前庭に救助訓練塔を設置する。
- 4 第 6 代消防長に鈴木一男が就任する。
- 8 第 17 回福島県下消防職員親善卓球大会が原町市（県営原町体育館）で開催される。
- 1 0 指揮兼広報車（トヨタカローラバン）を購入し、相馬消防署に配置(更新)する。
- 1 1 消防無線電話移動局 3 基購入、指揮車(原町消防署)、器具搬送車（原町消防署）、水槽付消防ポンプ自動車(鹿島分署)に装備する。

1988

- 昭和 6 3 . 1 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽 2,000 ㍓）を購入し、相馬消防署に配置(更新)する。
- 3 相馬地方危険物安全協会が設立される。
- 8 相馬消防署新地分署車庫に防寒防犯のためのシャッターを取り付ける。
- 1 0 原町市幼年消防大会が県営原町体育館で開催される。
相馬地方婦人消防隊連絡協議会が設立される。
- 1 1 福島県相双地方総合防災訓練が飯館村で実施される。

	1 2	救助工作車（いすゞⅡ型）を購入し、原町消防署に配置（新規）する。	
平成 元.	3	福島県共済農業協同組合連合会より救急自動車（ニッサン2 B型）が寄贈され、原町消防署に配置する。	1989
	5	第4 2回福島県下消防大会が原町市で開催される。	
	6	指揮兼広報車（トヨタカローラバン）2台を購入し、相馬消防署新地分署、原町消防署小高分署に配置（更新）する。	
	8	財団法人日本消防協会より指揮兼広報車が寄贈され、消防本部に配置する。	
平成 2.	2	消防無線電話移動局2基購入し、水槽付消防ポンプ自動車（相馬消防署）と指揮兼広報車（相馬消防署鹿島分署）に配置する。	1990
	3	財団法人日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車（三菱、水槽2,000ℓ）が寄贈され、原町消防署に配置（更新）する。	
	4	第7代消防長に佐藤芳夫が就任する。	
	7	指揮兼広報車（トヨタカローラバン）2台を購入し、相馬消防署、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。	
	8	平成2年度福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。	
	9	財団法人日本防火協会より防火広報車（ニッサンキャラバン）が寄贈され、消防本部に配置する。	
		救急自動車（2 B型4WD）を購入し、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。	
	1 0	第9回県下消防職員親善野球大会が原町市で開催される。	
	1 1	相馬地方母と子の防火大会が原町市（県営原町体育館）で開催される。	
平成 3.	6	指揮兼広報車（トヨタカローラバン）を購入し、相馬消防署鹿島分署に配置（更新）する。	1991
	1 0	救助工作車（三菱Ⅱ型）を購入し、相馬消防署に配置（新規）する。	
平成 4.	2	相馬地方消防設備保守協会15周年記念式典が原町市で開催される。	1992
		福島総合警備保障株式会社より防火広報車1台が寄贈され、原町消防署に配置する。	
	4	職員定数条例を一部改正、3名を増員し133名とする。	
	6	指揮兼広報車（トヨタカローラバン）を購入し、消防本部に配置する。	
		消防本部指揮兼広報車を原町消防署に配置替えする。	
	8	平成4年度福島県総合防災訓練が原町市で実施される。	
	1 0	消防ポンプ自動車（三菱CD1型）2台を購入し、相馬消防署、原町消防署に配置（更新）する。	
		消防無線電話移動局5基を購入し装備する。	
	1 1	完全週休2日制の実施を開始する。	
	1 2	30日相馬消防署勤務の大井利文消防司令補が救急現場にて殉職する。	
平成 5.	1	故大井利文消防司令長の相馬地方広域市町村圏組合告別式が鹿島町勝縁寺で執り行われる。	1993
	2	高圧空気充填機を購入し、消防本部に配備する。	
		日本自動車工業会より救急自動車（ニッサン2 B型4WD）が寄贈され、相馬消防署に配車（更新）する。	
	3	高度救急資器材一式を購入し、原町消防署に配備する。	
	4	第8代消防長に只野清治が就任する。	
		職員定数条例を一部改正、8名増員し141名とする。	

- 7 高度救急資器材一式を購入し、相馬消防署に配備する。
救助隊管理者査閲を実施する。
- 1 0 指令車（トヨタクラウン）を購入し、消防本部に配置する。
化学消防ポンプ自動車（三菱Ⅱ型、水槽 1,300 ㍓、泡原液 500 ㍓）を購入し、原町消防署に配置(更新)する。
平成 5 年度福島県相双地方総合防災訓練が新地町で実施される。
- 1 2 原町消防署に緊急自動車出動表示灯を設置する。

-
- 平成 6. 1 救急自動車(ニッサン 2 B 型 4 WD)を購入し、原町消防署小高分署に配 **1994**
置(更新)する。
- 3 消防無線電話基地局 1 基、携帯無線局 3 基を更新配備する。
 - 4 職員定数条例を一部改正、6 名増員し 1 4 7 名とする。
 - 1 0 水槽付消防ポンプ自動車（三菱、水槽 2,000 ㍓）を購入し、原町消防署小高分署に
配置(更新)する。
消防ポンプ自動車(三菱 CD-1 型)を購入し、相馬消防署に配置(更新)する。
 - 1 2 故大井利文消防司令長の顕彰碑を建立する。

-
- 平成 7. 2 高度救急資器材一式を購入し、原町消防署飯館分署に配備する。 **1995**
消防無線電話移動局 3 基、携帯無線局 3 基を更新装備する。
- 4 救急救命士（草刈 薫）第 1 号が誕生する。
 - 8 第 2 0 回県下消防職員予防、警防、救急実務研究会が開催される。
 - 1 0 平成 7 年度福島県相双地方総合防災訓練が小高町で実施される。
水槽付消防ポンプ自動車（日野、水槽 2,000 ㍓）を購入し、相馬消防署鹿島分署に配
置（更新）する。
消防ポンプ自動車（三菱 CD 1 型）を購入し、原町消防署小高分署に配置（更新）
する。
高度救急資器材一式を購入し、原町消防署小高分署に配備する。
 - 1 2 福島県緊急消防援助隊を編成する。

-
- 平成 8. 2 消防無線電話基地局 2 基、移動無線局 2 基、携帯無線局 3 基を購入し、 **1996**
更新配備する。
- 4 第 9 代消防長に新谷榮正が就任する。
消防本部の機構改革を実施し、総務課に総務係と企画調整係、予防課に予防係と危険
物係、警防課に警防救急係と通信指令係を設け 3 課 6 係とする。
救急救命士に 1 人（菅野忠孝）が合格、計 2 人となる。
 - 6 永井清美氏(相馬市)を第 1 号民間応急手当指導員に認定する。
 - 7 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
 - 9 救急応急手当指導発表会を開催する。
 - 1 1 第 1 2 回福島県防火大会が原町市で開催される。
平成 8 年度福島県相双地方総合防災訓練が鹿島町で実施される。
消防ポンプ自動車（三菱 CD 1 型） 2 台を購入し、原町消防署、相馬消防署新地分署
に配置(更新)する。
救急救命士に 2 人（高倉健一、小谷津芳秀）が合格、計 4 人となる。
相馬（市）消防署発足 4 0 周年を迎える。

- 平成 9. 2 消防無線電話基地局 1 基、移動無線局 3 基、携帯無線局 3 基を購入し、更新配備する。
救急自動車（ニッサン 2 B 型）を購入し、相馬消防署鹿島分署に配置（更新）する。
- 3 高度救急資器材一式を購入し、相馬消防署鹿島分署に配備する。
- 5 福島県共済農業協同組合連合会より、救急自動車（トヨタ 2 B 型）1 台が寄贈され、相馬消防署新地分署に配置する。
- 6 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
- 1 0 高度救急資器材一式を購入し、相馬消防署新地分署に配備（更新）する。
- 1 1 消防本部旗が寄贈される。
消防ポンプ自動車（三菱 CD 1 型）2 台を購入し、相馬消防署鹿島分署、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。
救急救命士に 1 人（太田秀明）が合格、計 5 人となる。

1997

- 平成 1 0. 1 消防無線電話基地局 1 基、移動無線局 3 基、携帯無線局 3 基を購入し、更新配備する。
福島県消防防災航空隊員として 1 名（高橋友幸）を事前派遣する。
- 4 職員定数条例を一部改正、1 名増員し 1 4 8 名とする。
福島県消防防災航空隊員として 1 名（高橋友幸）を派遣する。
相馬地方広域市町村圏組合職員章が制定され、全職員に貸与する。
- 5 第 5 1 回福島県下消防大会が相馬市で開催される。
- 6 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
- 7 救急救命士に 1 人（河村幸一郎）が合格し、計 6 人となる。
- 9 救急救命シミュレーション発表会を原町市で開催する。
指揮兼広報車（トヨタカローラバン）2 台を購入し、相馬消防署、原町消防署に配置（更新）する。
- 1 0 応急手当指導員養成講習会を開催、職員全員が資格を取得する。
- 1 1 救急救命士に 1 人（高原和博）が合格、計 7 人となる。
- 1 2 高規格救急自動車（トヨタハイメディック）、高度訓練用救急資器材一式を購入し、原町消防署に配置、運用を開始する。
消防無線電話全局の呼び出し名称を改正、運用開始する。

1998

- 平成 1 1. 4 第 1 0 代消防長に萩原勝が就任する。
救急救命士に 1 人（五賀和広）が合格、計 8 人となる。
- 6 指揮兼広報車（ホンダパートナー 4 WD）2 台を購入し、相馬消防署新地分署、原町消防署小高分署に配置（更新）する。
相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
連絡車（ホンダライフ）を購入し、消防本部に配置（新規）する。
- 8 ポケットベルを全職員が携帯し、運用を開始する。
- 9 福島県消防緊急援助隊集結野営訓練に消火部隊 1 隊が参加する。
第 1 回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 1 0 第 1 9 回全国豊かな海づくり大会が相馬市で開催され、消防特別警備隊を編成する。
平成 1 1 年度福島県相双地方総合防災訓練が飯館村で実施される。
- 1 2 新地分署に出動表示灯を設置する。
コンピューター西暦 2000 年問題に係る危機管理体制を配備する。

1999

- 平成12. 1 火災撲滅運動の一環として、相馬地方全世帯に「無火災宣言の家」ステッカーを配布する。
- 3 消防無線電話中継施設を鹿島町に設置し、不感地帯の解消を図る。
財団法人日本消防協会から救急自動車（ニッサン2B型）が寄贈され、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。
- 4 第11代消防長に米山光喜が就任する。
財団法人日本消防協会に実務研修として1年間、職員1名（高野孝一）を派遣する。
- 6 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
- 7 指揮兼広報車（ホンダパートナー4WD）2台を購入し、相馬消防署、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。
あぶくま信用金庫50周年記念事業で、心肺蘇生法訓練用人形6体が寄贈される。
- 8 平成12年度福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。
- 9 第2回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 10 社団法人日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車（三菱）が寄贈され、相馬消防署に配置（新規）する。
- 12 高規格救急自動車（ニッサンパラメディック）と高度訓練用救急資器材一式を購入し、相馬消防署に配置する。

2000

- 平成13. 2 救急救命士に1人（米本民男）が合格、計9人となる。
- 3 相馬消防署に車庫を新築する。
- 4 機構改革により4分署の副分署長制を廃止、当直司令2名体制とする。
- 5 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
飯館村建物火災を福島県消防防災ヘリコプターが発見、通報する。
- 6 指揮兼広報車（ホンダシビック、パートナー4WD）3台を購入し、消防本部、原町消防署、相馬消防署鹿島分署に配置（更新）する。
- 9 第41回福島県消防協会相馬支部幹部大会の席上、消防団幹部（班長以上の階級で3年以上勤続者）に防火管理者認定証を交付する。
第3回救急シンポジウムを原町市（サンライフ原町）で開催する。
- 10 第20回福島県下消防職員親善野球大会が鹿島町で開催される。
- 11 原町市立病院から福島県立医大まで、福島県消防防災ヘリコプターにより救急患者を初めて搬送する。
福島県消防防災ヘリコプターによる救急患者搬送現場検証訓練を実施する。

2001

- 平成14. 1 相馬消防署に出動表示灯を設置する。
- 4 救急救命士1人（佐々木弘光）が合格、計10人となる。
- 5 相馬地方広域消防発足30周年記念管理者査閲を実施する。
災害用エアータントを購入し、消防本部に配備する。
- 9 第4回救急シンポジウムを相馬市（はまなす館）で開催する。
救急自動車（トヨタ2B型4WD）を購入、原町消防署に配置（更新）する。
- 10 平成14年度相双地方総合防災訓練が新地町で実施される。
- 11 相馬地方自主防災組織推進大会を原町市スポーツセンターで開催する。
相馬地方広域消防30周年式典を原町市で開催する。
相馬地方広域消防発足30周年記念誌「相馬広域消防のあゆみ」を発刊する。

2002

2003

- 平成 1 5 . 1 相馬地方広域消防水難救助隊が 3 7 名で発足する。
- 2 水難救助隊用ウェットスーツ 6 着他水難救助用資機材を購入、相馬、原町両署に配備する。
- 4 第 1 2 代消防長に木村健次郎が就任する。
福島県消防防災航空隊に消防士長 武田真弘を派遣する。
救急救命士 1 人（大河内敏栄）が合格、計 1 1 人となる。
- 5 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 7 災害救援車（ニッサンシビリアン）を購入し、消防本部に配置する。
双葉地方広域市町村圏組合消防本部と合同研修会を開催する。
- 8 福島県緊急消防援助隊集結訓練、福島県総合防災訓練が原町市で開催される。
- 9 第 5 回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 1 0 パソコンによる消防ネットワークシステムの運用を開始する。
- 1 1 福島県消防長会主催第 1 回消防職員駆伝大会で当本部が優勝する。

2004

- 平成 1 6 . 3 現場指揮に関する職員研修会を開催する。
- 5 救急救命士に 1 人（大洲紀一）が合格、計 1 2 名となる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 7 双葉地方広域市町村圏組合消防本部と合同研修会を浪江町で開催する。
- 9 第 6 回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 1 0 新潟中越地震災害に緊急消防援助隊 2 隊 7 名が初出動する。
原町消防署飯館分署に高規格救急自動車（トヨタハイメディック）を配置（新規）する。
- 1 1 救急救命士に 1 人（庄司智久）が合格、計 1 3 人となる。
福島県消防長会主催第 2 回消防職員駆伝大会で当本部が優勝する。

2005

- 平成 1 7 . 2 福島県消防職員意見発表大会で林貴之副士長が最優秀賞となる。
- 4 第 1 3 代消防長に渡部和俊が就任する。
福島県消防防災航空隊に消防士長 小林友樹を派遣する。
「焼死者火災多発警報」を発令し特別警戒体制をとる。
（3 月から 4 月に火災多発、死者 7 名、火傷者 4 名）
救急救命士に 1 人（小泉英明）が合格、計 1 4 名となる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 7 相馬地方震災対策推進会議を開催する。
- 8 1 6 日宮城県沖を震源とする震度 5 強の地震発生により非常配備体制を発令する。
- 9 第 7 回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 1 0 救助工作車（日野）を購入し、原町消防署に配置する。
相馬、双葉職員合同研修及び交流会を実施する。
- 1 1 仙台市から「地震防災アドバイザー」京栄二郎氏を講師に招き防災講演会を開催する。
救急救命士に 1 人（志賀 毅）が合格、計 1 5 名となる。
- 1 2 水槽付消防ポンプ自動車（日野、水槽 2, 000 ㍓）を購入し、相馬消防署に配置する。

2006

- 平成 1 8 . 1 原町市、小高町、鹿島町が合併して南相馬市が誕生したことにより
原町消防署の名称が南相馬消防署に変更される。
また、南相馬消防署所轄の分署とともにその名称も変更される。
南相馬消防署小高分署、南相馬消防署鹿島分署、南相馬消防署飯館分署
- 2 携帯 119 番の受信を開始する。

- 3 河村幸一郎救命士が薬剤投与実施の救命士に認定第1号となる。
庄司智久救命士が気管挿管病院の実習を修了第1号となる。
- 4 講師を招き職員教養（原子力防災について）を南相馬市鹿島区で開催する。
救急救命士に1人（岡 裕一）が合格、計16名となる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
相馬地方防火安全協会が結成発足される。
- 9 第8回救急シンポジウムを相馬市で開催する。
- 10 双葉地方広域市町村圏組合消防本部と合同研修会を浪江町で開催する。
- 11 高規格救急自動車（トヨタハイメディック）を購入し、南相馬消防署小高分署に配置する。

平成19.

- 2 住宅用火災警報器設置推進大会を南相馬市鹿島区で開催する。
- 4 救急救命士に2人（濱名 修、梅田真史）が合格、計18名となる。
- 5 福島県消防殉職者慰霊祭及び第60回福島県消防大会が南相馬市で開催される。
平成19年度福島県水防訓練が南相馬市鹿島区（真野川河川敷）で実施される。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 8 地震災害対応訓練を実施する。
- 9 第9回救急シンポジウムを南相馬市で開催する。
指令車（トヨタプリウス）を購入し、消防本部に配置（更新）する。

2007

平成20.

- 1 福島県ドクターヘリが運用開始され、当本部管内の労災事故で県内初出動の要請となる。
- 2 水槽付消防ポンプ自動車（日野、水槽2,000ℓ）を購入し南相馬消防署に配置（更新）する。
内外部講師による職員研修を南相馬市鹿島区で開催する。
- 4 第14代消防長に井上秀雄が就任する。
救急救命士に2人（鈴木伸洋、田村英二）が合格、計20名となる。
化学災害対応のため活動要領と防護資機材の取り扱いについて研修会を2回実施する。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
14日午前8時43分に岩手・宮城内陸地震（震度6強）が発生し、緊急消防援助隊（4隊15名）が岩手県一関市（1泊）へ出動する。
- 7 24日午前0時26分に岩手県沿岸北部地震（震度6強）が発生し、緊急消防援助隊（2隊7名）が岩手県盛岡市へ出動する。
地震当日開催予定の第37回東北支部消防救助技術指導会（青森市）が、地震発生のため中止となり、参加予定のロープブリッジ救出チームが青森市から帰ることとなる。
相馬地方震災対策推進会議を開催する。
- 9 第10回救急シンポジウムを南相馬市鹿島区で開催する。
- 12 高規格救急自動車（トヨタハイメディック）を購入し、南相馬消防署鹿島分署に配置する。

2008

平成21.

- 2 (財)日本消防協会理事長秋本敏文氏（元消防庁長官）を招き、消防職団員を対象とした防災講演会が開催される。
- 3 第15代消防長に森茂雄が就任する。
福島県消防防災航空隊に消防士長 中里岳文を派遣する。
㈱近代消防社代表取締役三井栄志氏を招き、消防職員研修会（防災講演）及び防災懇

2009

談会（近代消防掲載記事インタビュー）を開催する。

救急OAシステムが導入され運用開始する。

救急救命士に2人（菅野茂則、菊地隆史）が合格、計22名となる。

- 6 相馬地方広域消防検閲式を計画したが、雨により中止となる。
- 8 消防ネットワークシステムのサーバー1台を更新、1台増台し2台で運用する。
- 9 第11回救急シンポジウムを相馬市で開催する。

平成22.

- 1 相馬消防署新庁舎の落成式（20日）及び開署式（22日）が举行される。

2010

※平成21年3月27日着工、平成21年12月28日竣工

- 2 消防ポンプ自動車（日野）を購入し、南相馬消防署に配置（更新）する。
- 3 南相馬消防署小高分署新庁舎の落成式（27日）及び開署式（30日）が举行される。
※平成21年5月29日着工、平成22年2月23日竣工
- 4 第16代消防長に山田 敏が就任する。
救急救命士に2人（杉 幸一、渡邊 亮）が合格、更に、専門学校で養成を受けた後に消防職員を拝命した1人（桑折健志）が合格し、計25名となる。
- 6 高規格救急自動車（ニッサンパラメディック）を購入し、南相馬消防署に配置（更新）する。
相馬地方広域消防検閲式を計画したが、雨により延期する。
- 9 福島県緊急消防援助隊集結訓練、福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。
第12回救急シンポジウムを南相馬市で開催する。
- 10 福島県相双地方（新地町）総合防災訓練が新地町役場周辺で開催される。
- 11 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
北海道・東北ブロック緊急消防援助隊訓練が郡山市で開催される。
住宅防火対策推進シンポジウムを南相馬市鹿島区のさくらホールにおいて開催する。

平成23.

- 1 高規格救急自動車（トヨタハイメディック）を購入し、相馬消防署新地分署に配置（更新）する。これで、全所属に高規格救急自動車が配備となる。
- 2 新潟県小千谷市消防団長金子正男氏を招き、消防職団員を対象とした防災講演会を開催する。
- 3 11日（金）14：46東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生
14：49～大津波警報発令、15：40～大津波発生（相馬市9.3m）
※震源地～三陸（牡鹿半島）沖約130km、深さ24km、マグニチュード9.0、
震度～新地町6強、相馬市・南相馬市・飯館村6弱（最高震度～栗原市7）
各地で死傷者が発生し、緊急消防援助隊、県内応援隊を要請する。
地震と津波の影響で東京電力福島第一原子力発電所が水素爆発を起こし、放射性物質が大気中に放出されたことにより、当該発電所から半径20km圏内（南相馬市小高区、南相馬市原町区の一部）が避難指示となり、南相馬消防署小高分署は、その機能を南相馬消防署へ移転する。
20から30km圏内が屋内退避となる。
- 4 救急救命士（横山良平）が合格し、計26名となる。
退職予定の所属長4名（加藤警防課長、齋藤相馬署長、佐藤南相馬署長、森小高分署長）は大地震のため、嘱託職員としてさらに2ヶ月間雇用することとなった。
計画的避難区域に飯館村全域が、緊急避難準備区域に20Kmから30Km圏内が設

2011

定される。

- 5 嘱託職員 4 名の離任式を行う。
- 6 平成 23 年度相馬地方広域消防辞令交付式を行う。
救助工作車（相馬消防署）・高規格救急自動車（横浜市長から寄贈（無償譲渡））の交付・配車式を行う。
- 8 柵タダノよりクレーン付 4 t トラックが寄贈され消防本部に配置する。
- 9 東日本大震災により平成 23 年救急救命士国家試験を受験できなかった者に対しての追加試験があり、救急救命士（遠藤洋）が合格し、計 27 名となる。
30 日「緊急時避難準備区域」が解除される。
- 10 東日本大震災に伴う消防活動検証の結果を消防長に答申する。
- 12 相馬地方地震対策計画の一部を見直す。

平成 24.

- 1 18 日東日本大震災福島県消防殉職者慰霊祭が南相馬市民会館「ゆめはっと」で開催される。
- 2 児玉龍彦東京大学教授を招いて「放射線と健康障害」の職員研修を原町区福祉会館で開催する。
- 3 相馬地方地震対策計画に基づく地震対策訓練を実施する。
- 4 職員定数条例を一部改正し、消防職員定数 152 名とする。
新規採用職員で、初の女性消防職員 1 名（救急救命士の資格有）が採用され、救急救命士（伊東郁恵）が計 28 名となる。
3 月 28 日に J A 共済連福島より高規格救急自動車（トヨタ ハイメディック）の寄贈を受け、相馬消防署に配置する。
常磐自動車道の南相馬 I C から相馬 I C 間が開通となる。
16 日に小高区の警戒区域解除、避難指示区域の見直しにより、昨年 3 月 14 日から閉庁していた南相馬消防署小高分署の通常業務を開始する。
福島県消防学校へ教官として櫻井正貴消防士長を派遣する。（平成 26 年 3 月 31 日まで）
- 5 高規格救急自動車（ニッサン）を購入し、大津波で全損した相馬消防署に高規格救急自動車に替え配置（更新）する。
横浜市長から寄贈（無償譲渡）された高規格救急自動車を消防本部に予備車として配置する。尚、平成 24 年度から常磐自動車道の一部開通により、高速道路救急対応救急車 1 台増車・救急隊 1 隊増隊し、救急車 9 台（本部配置予備車 1 台含む）、救急隊 8 隊（相馬消防署は救急隊 1 隊から 2 隊に増隊）による運用となる。
- 7 17 日に飯舘村は区域再編により、計画的避難区域から帰還困難区域、居住制限区域、避難解除準備区域の 3 区域に見直される。
- 9 第 13 回救急ジンポジウムを南相馬市で開催する。
11 日に福島県警と合同捜索を実施する。（相馬、南相馬警察署管内）
12, 13 日警戒区域等における大規模林野火災を想定した訓練を実施する。

2012

平成 25.

- 2 消防庁国民保護・防災部防災課消防団専門官 青木浩氏を招いて、平成 24 年度消防関係者防災研修会をさくらホールで開催する。
第 36 回福島県消防職員意見発表会で、相馬消防署新地分署寺島政和士長が最優秀賞となる。
- 3 相馬地方地震対策計画に基づく地震対策訓練を実施する。
鹿島駅構内で J R, 警察、消防合同で J R 列車事故対応訓練を実施する。

2013

1 1、1 3日に福島県警と合同捜索を実施する。(南相馬警察署管内)
消防ポンプ自動車(CD-1)を1台購入し相馬消防署に配備(更新)する。

2 7日に消防救急デジタル無線開通式を消防本部会議室で開催する。

4 1日から消防救急デジタル無線が正式運用開始となる。

救急救命士に2人(伊藤友英、但野 充)が合格、更に専門学校で養成を受けた後消防職員を拝命した1人(遠藤好彦)が合格し、計31名となる。

消防救急デジタル無線立石山中継所への落雷により電源設備等が破損する。

5 南相馬市消防・防災センター(消防本部・南相馬消防署併設)の建設が着工となる。
全国消防長会東北支部総会が岩手県盛岡市で開催され、席上第36回全国消防長会東北支部意見発表があり、福島県代表として寺島政和消防士長が出場する。

飯舘村で実施された多数傷病者対応訓練(DMAT訓練)に参加。

6 相馬地方広域消防職員研修会「公務員の倫理等に関する研修」を道の駅南相馬で開催する。

7 天皇皇后両陛下の飯舘村行幸啓に際し、有事に備えた救急隊増隊を実施する。

9 多数傷病者事故対応訓練を南相馬(ダイユウエイト駐車場)及び相馬(相馬消防署)で実施する。

第14回救急シンポジウムを相馬市はまなす館で開催する。

1 1 東京ドームで開催された消防団120年・自治体消防65周年記念大会に出席する。

平成26. 2 豪雪により、国道115号線や県道原町・川俣線が通行止めとなり

2014

相馬地方が孤立。勤務交代できず南相馬消防署飯舘分署で待機する職員あり。

消防職団員を対象とした平成25年度消防関係者防災研修会を「さくらホール」で開催予定であったが、中通りが豪雪の為東北新幹線が運休。東京から来福予定の講師が到着できず中止となる。

3 相馬地方地震対策計画の基づく地震対策訓練を実施する。

鹿島駅構内でJR、警察、消防合同でJR列車事故対応訓練を実施する。

1 1日に福島県警と合同捜索を実施する。(南相馬警察署管内)

4 第17代消防長に草刈 薫が就任する。

職員定数条例を一部改正し、消防職員定数148名とする。

救急救命士に2人(佐藤 学、林 貴之)が合格し、計33名となる。

福島県消防学校へ教官として庄司栄伸消防司令補を派遣する。(平成28年3月31日まで)

6 第37回福島県消防救助技術大会において、草野隆洸消防副士長(ロープブリッジ渡過)、佐藤弘隆消防副士長、佐藤貴洋消防副士長(ロープ応用登はん)が第1位となり第43回全国救助技術大会に出場を決める。(8月20日広島県に発生した土砂災害対応のため、8月27日の全国大会は中止となった。)

地方公務員災害補償基金による職員のためのメンタルヘルスセミナーを2日間にわたり道の駅南相馬で開催する。

7 飯舘村草野小学校グラウンドにおいて、第39回相馬地方消防操法大会を開催する。

8 東日本大震災以後、被災者に対し免除してきた消防手数料徴収を開始する。

9 第15回救急シンポジウムを南相馬市さくらホールで開催する。

震災後、許可車両以外通行止めとなっていた国道6号線は、一般車(自動車のみ)の通行が可能となる。

- 1 0 指揮兼広報車（トヨタ ラッシュ）を3台購入し、相馬消防署、南相馬消防署、南相馬消防署飯館分署に配備（更新）する。
- 1 1 飯館村須萱地内において、避難区域内における大規模火災対応訓練を開催する。
双葉地方広域市町村圏組合消防本部との合同で常磐道現地調査を実施する。
亘理地区行政事務組合消防本部との合同で常磐道事故対応訓練を宮城・福島県境で実施する。
新地町農村環境改善センターにおいて、第38回相馬地方広域消防職員意見発表会を開催する。
- 1 2 喜多方地方広域市町村圏組合消防本部 高久警防課長を講師に迎え、高速道事故対応研修会を開催する。
常磐自動車道浪江IC以北が開通する。
消防ポンプ自動車（CD-1 CAFS付）を1台購入し新地分署に配備（更新）する。

-
- 平成27. **2015**
- 1 高機能消防指令施設仮運用、南相馬市消防・防災センターにおいて業務を開始する。
 - 2 防災システム研究所山村武彦氏を招き、消防職団員を対象とした平成26年度消防関係者防災研修会を南相馬市さくらホールで開催する。
常磐自動車道南相馬鹿島スマートICが開通となる。
 - 3 常磐自動車道浪江ICから常磐富岡IC間が開通し全線開通となる。
南相馬市消防・防災センター落成式と高機能消防指令施設開通式を、南相馬市と相馬地方広域市町村圏組合の合同で挙げる。（24日）
 - 4 救急救命士に2人（中里岳文、但野賢哉）が合格し、計35名となる。
福島県消防防災航空隊に佐藤彰洋消防士長を派遣する。（平成30年3月31日まで）
 - 5 避難区域大規模火災対応訓練が檜葉町で開催される。
 - 6 相馬地方防火安全協会設立総会が消防本部会議室において開催される。
 - 8 指揮兼広報車（トヨタ プリウスα）3台を購入し、消防本部、相馬消防署、南相馬消防署へ配備する。
福島県総合防災訓練が雲雀ヶ原祭場地をメイン会場として開催される。
 - 9 標準報酬制度が導入される。
台風17号、18号襲来により消防長特命大雨特別警戒が発令される。
第16回救急シンポジウムを相馬市はまなす館で開催する。

-
- 平成28. **2016**
- 1 小型水槽付消防ポンプ自動車（CD-1 CAFS付）2台と災害救援車を購入し、小型水槽付消防ポンプ自動車は南相馬消防署小高分署、同飯館分署に、災害救援車は消防本部に配置（更新）する。
常葉大学社会環境学部教授重川希志依氏を招き、消防職団員を対象とした平成27年度消防関係者防災研修会を南相馬市さくらホールで開催する。
 - 3 当本部作成の「東日本震災記録～あの日を忘れない～」が完成、関係機関へ配布する。
 - 4 南相馬市原町区大谷地内で発生の建物火災から移行した林野火災は、2日にわたり、32haを焼失した。
人事評価制度が開始される。
救急救命士に2人（駒木根孝幸、荒 和久）が合格し、柳沼飛翔が救急救命士有資格者で採用される。
 - 6 深夜勤務従事者健康診断を実施する。

相馬地方広域消防検閲式を開催する。

- 7 南相馬消防署飯館分署新庁舎の落成式が举行される。(30日)
※平成27年10月7日着工、平成28年5月31日竣工
- 8 南相馬市原町区北泉での水難事故に対応した海上保安部の小型艇が転覆する多重事故の発生により、当本部から12隊33名が捜索・救助にあたる。
- 9 相馬消防署新地分署新庁舎の落成式が举行される。(30日)
※平成27年10月20日着工、平成28年9月16日竣工
- 10 ワンデーインターンシップ(女性消防職員採用広報活動)が仙台市で開催され、消防本部として参加する。
- 11 福島県沖地震(マグニチュード7.4 震度5弱)で津波警報が発令。非常配備体制を発令する。
- 12 JR常磐線相馬駅から浜吉田駅間が開通する。
小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、南相馬消防署鹿島分署に配置(更新)する。

平成29.

- 1 南相馬市立総合病院脳卒中センターの開所により、センター、消防、**2017**
ドクターヘリによる連携訓練が開催される。
南相馬市消防団大岩邦子氏、齋藤万喜氏、福島復興局長木幡浩氏を招き、平成28年度消防関係者防災研修会を南相馬市さくらホールで開催する。
- 3 化学消防ポンプ自動車(Ⅲ型)1台と多目的消防車(ブーム・小型水槽・CAFS)2台を購入し、化学消防ポンプ自動車は南相馬消防署に、多目的消防車は相馬消防署、南相馬消防署に配置(更新)する。
東北中央自動車道相馬福島道路相馬山上ICから相馬玉野IC間が開通する。
- 4 第18代消防長に小谷津芳秀が就任する。
救急救命士国家試験に遠藤啓一消防士長、西 悠佑消防士長が合格する。
- 5 双葉郡浪江町内の十万山で発生した林野火災に、福島県広域消防相互応援協定に基づき職員を派遣する。9日間にわたり、人員延べ90名、車両延べ17台が活動。
- 6 第40回福島県消防救助技術大会において、佐藤弘隆消防士長、佐藤貴洋消防士長組(ロープ応用登はん)、高橋晃平消防副士長(はしご登はん)が第1位となり、第46回全国大会出場を決める。
- 7 相馬地方広域消防検閲式を開催する。
- 8 福島、伊達、安達、相馬の4消防本部で県北・相馬消防連携等推進研究会を設置する。
第46回全国消防救助大会(仙台市)でロープ応用登はんは第3位、はしご登はんは第15位の成績を収める。
- 9 第18回救急シンポジウムを相馬市はまなす館で開催する。
- 10 相馬地方広域消防ハラスメント対応委員会を開催する。
- 12 南相馬消防署鹿島分署新庁舎の落成式が举行される。(21日)
※平成29年3月29日着工、平成29年11月22日竣工

平成30.

- 1 相馬中央病院 坪倉正治氏を招き、消防職団員を対象とした平成29 **2018**
年度消防関係者防災研修会を相馬市民会館で開催する。
- 2 高規格救急自動車(トヨタ)を購入し、南相馬消防署に配置(更新)する。
高規格救急自動車(ニッサン)を購入し、南相馬消防署小高分署、同飯館分署に配置(更新)する。
- 3 東北中央自動車道相馬福島道路相馬玉野ICから霊山IC間が開通する。

県道原町川俣線八木沢トンネルが開通する。

原子力防災資機材貸与物品としてエアテント一式が配備される。

- 4 警防課通信指令係を3係長制とする。
福島県消防学校へ教官として庄司智久消防司令補を派遣する。(令和2年3月31日まで)
救急救命士国家試験に新妻真人消防司令補、佐藤勝亮消防士長が合格する。
- 6 天皇后両陛下をお迎えし、第69回全国植樹祭ふくしま2018が原町区萱浜で開催され、会場警備にあたる。
第41回福島県消防救助技術大会において、久田裕一郎消防士長(ロープブリッジ渡過)が第1位となり、第47回全国救助技術大会に出場を決める。(台風20号の影響により8月24日の全国大会(京都市)は中止となった。)
- 7 相馬地方広域消防検閲式を開催する。
- 8 第41回福島県消防操法相馬地方大会を長友グラウンド(相馬市)で開催する。
- 9 第19回救急シンポジウムを南相馬市さくらホールで開催する。
県消防学校と連携する消防団員基礎教育Ⅱを消防本部主催で開催する。
- 10 4 消防本部合同集団救急事案対応訓練を小高区減容化施設で開催する。

平成31. 1 福島地方気象台次長 松岡稔氏を招き、消防職団員を対象とした平成30年度消防関係者防災研修会をさくらホールで開催する。

2019

平成30年度第1回ハラスメント対応委員会を開催する。

- 4 救急出場平準化対策のため、所属の配置人員を見直す組織変更を行う。
救急救命士国家試験に大久保貴司消防士長、牛来浩希消防士長が合格する。
消防庁長官 黒田武一郎氏の激励視察を南相馬市消防・防災センターで受ける。
- 令和 元. 5 新天皇が即位され、元号が「令和」に改められる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を開催する。
第42回福島県消防救助技術大会において、堀川和成消防副士長、木幡拓也消防副士長、志賀虎也消防副士長(以上3名:ほふく救出)、角彩路消防士(ロープブリッジ渡過)が第1位となり、第48回全国消防救助技術大会(岡山市)に出場し入賞する。
- 8 令和元年度職員教養を南相馬警察署 刑事課長 横山昭幸氏を招き開催する。
- 9 第49回福島県消防協会相馬支部幹部大会を新地町農村環境改善センターで開催する。
第20回救急シンポジウムを相馬市はまなす館で開催する。
- 10 台風19号と25日の豪雨により、相馬地方では死傷者や住宅への浸水、浄水施設の被災により長期間の断水が発生する。

令和 2. 1 第43回相馬地方消防職員意見発表会を相馬市はまなす館で開催し、角彩路消防士が最優秀賞となる。

2020

ラジオ福島アナウンサー大和田新氏を招き、令和元年度消防関係者防災研修会を南相馬市浮舟文化会館で開催する。

- 3 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により退職職員感謝の集いを中止する。
感染症拡大防止で6月の東京オリンピック開催が延期となり、南相馬市及び相馬市、飯館村で予定された聖火リレーの警備体制も見送られる。
救急救命士国家試験に但野恵伸消防司令補、寺島政和消防司令補が合格し、水谷祐介消防士が救急救命士有資格者で採用される。
- 4 第19代消防長に菅野忠孝が就任する。
職員定数条例を一部改正し、消防職員定数152名とする。

再任用職員 2 名の採用と所属の配置人員を見直す組織改変を行う。

1 6 日全都道府県が新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域となる。

新型コロナウイルス対策会議（第 1 回）を開催し業務継続計画について検討する。

感染症拡大防止対策のため第 7 3 回福島県消防大会（主催：（公財）福島県消防協会、共催：相馬地方広域消防本部・福島県消防協会相馬支部）の中止が決定される。

県消防学校が新型コロナ対策のため閉鎖され初任教育学生が一時自宅学習となる。

- 5 緊急事態宣言が解除される。
新型コロナ対策のため第 4 3 回福島県消防救助大会が中止となる。（東北地区支部救助指導会、全国救助大会も中止）
- 6 特殊災害対応消防支援車（日野、マルチブーム 7 トン：消火用タンクコンテナ・救急救助対応用資機材コンテナ）を購入し、南相馬消防署に配車する。
- 8 新型コロナ対策のため第 4 2 回福島県消防操法相馬地方大会が中止となる。（福島県消防操法大会、全国消防操法競技大会も中止）
- 9 新型コロナ対策のため第 2 1 回救急シンポジウムを中止とする。
- 1 0 津波・大規模風水害対策車（いすゞ、油圧式マルチゲート：水陸両用車・高機能救命ボート）を総務省より貸与され、相馬消防署に配車する。
消防団員基礎教育Ⅱを相馬市防災備蓄倉庫及び南相馬市消防防災センターで開催する。
新型コロナ対策のため 9 月から延期の組合職員採用候補者一次試験を消防本部で実施する。
- 1 1 福島県消防指令センター共同運用検討準備会議の第 1 回会議が県庁で開催される。
福島県総合防災訓練が福島ロボットテストフィールドで開催される。
- 1 2 新型コロナ患者移送後の救急隊員のための保養用住戸を、南相馬市の協力で原町区東町に 2 部屋確保する。

-
- 令和 3. 1 新型コロナ特措法による緊急事態宣言が 1 1 都府県に発令され、これ **2021**
に含まれない福島県ではこの間を新型コロナウイルス緊急対策期間とする。（翌月 7 日までが 1 4 日までに延長される。）
新型コロナ対策のため第 4 4 回相馬地方広域消防意見発表会は中止としたが、第 4 4 回福島県消防職員意見発表会は動画審査となる。
福島地方気象台次長中塚齊氏を招き、令和 2 年度消防関係者防災研修会を南相馬市さくらホールで開催される。
- 2 1 3 日（土）2 3 : 0 7 地震発生 津波なし。震源地～福島県沖の深さ 5 5 k m、マグニチュード 7. 3、震度～相馬市・新地町 6 強、南相馬市 6 弱、飯舘村 5 強（最大震度～6 強）これにより相馬市黒木地内の常磐道で大規模な土砂崩れが発生し上下線が通行止めとなるも負傷者なし。ほか管内で死者はなく負傷者 7 名を搬送する。最大震度の相馬市、新地町では多くの建物に被害が発生する。
 - 3 水槽付消防ポンプ自動車（日野、水槽 2,100 ℓ）を購入し、南相馬消防署に配置（更新）する。
救急救命士に今野辰彦消防司令補が合格する。
東京オリンピック開催に伴い、聖火リレーが J ヴィレッジをスタートし当管内において警備を担当する。
 - 4 第 2 0 代消防長に菅原照見が就任する。
職員の第 1 回目新型コロナウイルスワクチン接種が開始される。

- 5 職員の第2回目新型コロナウイルスワクチン接種が開始される。
e ロボティクスより救急活動中の新型コロナ感染リスク低減のため、可搬型陰圧クリーンドームの寄贈を受け、南相馬消防署に配備する。
新型コロナウイルス感染症拡大により福島県非常事態宣言が発令される。
第43回福島県消防救助大会が開催され、小野田大士長がロープブリッジ渡過において優勝、ほふく救助において堀川和成士長、木幡拓也士長、菅野勇輝副士長が優勝し全国大会への出場権を獲得する。
福島県非常事態宣言発令に伴い、第74回福島県消防大会（主催：（公財）福島県消防協会、共催：相馬地方広域消防本部・福島県消防協会相馬支部）の中止が決定される。
- 7 東京オリンピックが開幕し福島県営あづま球場がソフトボール会場となった。消防が警備担当となり、当本部からも派遣した。（23日開幕8月8日閉幕）
- 8 福島県新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が適用される。
- 9 福島県新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が適用される。
新型コロナウイルス対策のため第21回救急シンポジウムを中止とする。
- 10 県消防学校と連携する消防団員基礎教育Ⅱを消防本部主催で開催する。
- 11 高規格救急自動車（トヨタ）を購入し、相馬消防署に配置（更新）する。
救助技術全国大会が新型コロナの影響を受け中止となる。
- 12 第45回相馬地方広域消防職員意見発表会が消防本部において開催される。
令和3年度相馬地方広域市町村圏組合職員教養を開催する。各所属、事務局及び看護学校に対し初のWeb配信を行う。
職員の第3回目新型コロナウイルスワクチン接種が開始される。

- | | | |
|-------|--|-------------|
| 令和 4. | <ol style="list-style-type: none"> 1 27日福島県新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が適用される 2 福島県新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の適用により令和3年度消防関係者防災研修会が中止となる。
福島県新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の適用により第45回福島県消防職員意見発表会が動画審査となる。 3 救急救命士に柚原和也消防士長、返見彰士長、林雅洋士長、草刈悠斗消防士が合格する。 4 第21代消防長に太田秀明が就任する。
職員定数条例を一部改正し、消防職員定数が156名となる。 6 新型コロナウイルス感染症により中止していた第75回福島県消防大会が須賀川市において3年振りに開催される。
第44回福島県消防救助大会が開催され、ロープブリッジ渡過の部で小野田大士長が優勝、ほふく救出の部で志賀虎也副士長、川上浩平副士長、渡部哲志副士長が同じく優勝し第50回全国消防救助大会に出場となり、また、ロープブリッジ救出の部では、第50回東北地区支部消防救助技術指導会へ出場となる。 7 職員の第4回目新型コロナウイルスワクチン接種が開始される。
新型コロナウイルスの影響で第44回福島県消防操法相馬地方大会が中止となる。 9 令和4年度4消防本部合同訓練が福島ロボットテストフィールドで実施する。
臨床心理士の有園愛氏を招き相馬地方広域消防職員教養を開催し、併せて各所属及び事務局にWeb配信を行う。 10 消防団員基礎教育Ⅱを相馬市防災備蓄倉庫と南相馬市消防・防災センターで実施する。 | 2022 |
|-------|--|-------------|

- 1 2 職員の第5回目新型コロナウイルスワクチン接種が開始される。
第46回相馬地方広域消防職員意見発表会が消防本部において開催される。

2023

- 令和 5. 1 会津大学特任教授の屋代眞氏を招き、令和4年度消防関係者防災研修会がサンライフ南相馬において開催される。
- 3 災害対応特殊救急自動車（トヨタ）を購入し、南相馬消防署に配置（更新）する。救急救命士に小岩秀明司令補と岩崎連也士長、令和5年度採用の小野成海、末永眞崇が合格する。
- 4 第2代消防長に五賀和広が就任する。
- 5 新型コロナウイルス感染症が感染症法上2類から5類に移行となり、感染対策が緩和される。
- 6 新型コロナウイルス感染症で延期されていた相馬地方広域消防検閲式を開催する。第45回福島県消防救助大会が開催され、はしご登はんの部で菅俣直也副士長が優勝、ロープ応用登はんの部で高瀬雄飛士長、柳沼飛翔士長が同じく優勝し第51回全国消防救助大会に出場となり、また、ロープブリッジ救出の部でも優勝し第51回東北地区支部消防救助技術指導会へ出場となる。
- 8 第50回福島県消防協会相馬支部幹部大会が相馬市のはまなす館で開催する。
- 9 相馬地方救急シンポジウム2023が台風13号の影響により中止となる。
- 10 福島県消防長会主催の消防署長研修会が消防本部において開催される。
- 12 第47回相馬地方広域消防職員意見発表会が消防本部において開催される。

2024

- 令和 6. 2 元東京消防庁丸の内消防署長の谷口由美子氏を招き、令和5年度消防関係者防災研修会が南相馬市のさくらホールにおいて開催される。
- 3 高規格救急自動車（トヨタ）を購入し、南相馬消防署鹿島分署に配置（更新）する。救急救命士に板倉健悟司令補、阿部啓太士長、令和6年度採用の青田莉空が合格する。
- 6 令和6年度公務員倫理研修が消防本部にて開催される。
- 7 令和6年度消防職員研修が消防本部にて開催される。
- 第45回福島県消防操法相馬地方大会を新地町民総合運動場で開催する。
- 9 相馬地方救急シンポジウム2024が原町区サンライフ南相馬で開催される。
- 10 令和6年度相馬地方市町村議会議員・幹部職員合同研修会が鹿島生涯学習センターで開催される。
- 11 消防団員基礎教育Ⅱを相馬市防災備蓄倉庫と南相馬市消防・防災センターで実施する。救急資器材12誘導心電図伝送システム（スクナSCUNA）を相馬消防署及び南相馬消防署に配備し運用開始する。

2025

- 令和 7. 1 第48回相馬地方広域消防職員意見発表会がサンライフ南相馬において開催される。
- 2 令和6年度消防関係者防災研修会がさくらホールにおいて開催される。高規格救急自動車（トヨタ）を購入し、相馬消防署に配置（更新）する。
- 3 相馬消防署庁舎を一部改築し女子専用仮眠室が新設される。救急救命士に門馬直道司令補、令和7年度採用の清信圭吾が合格する。

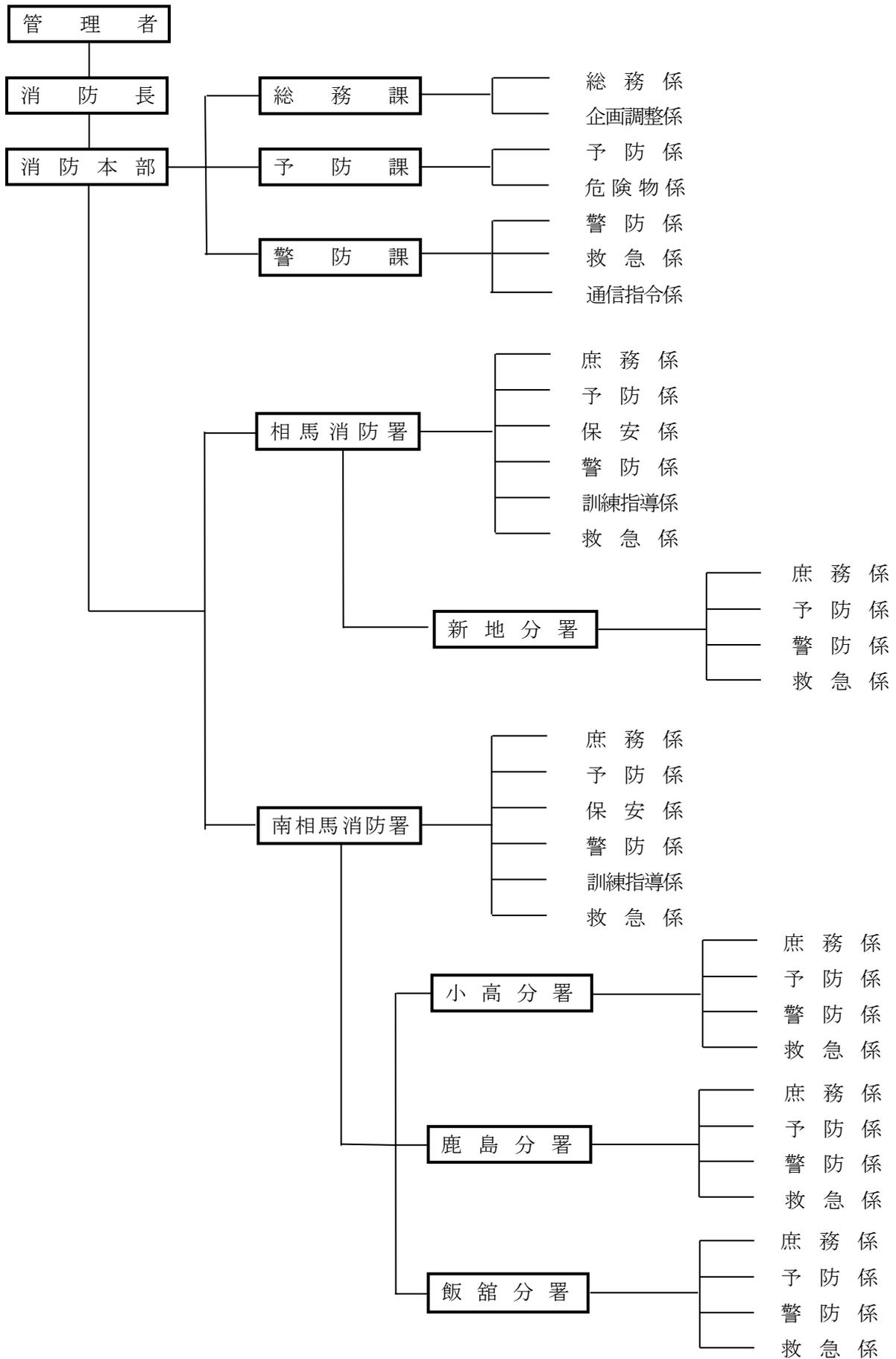
相馬地方広域消防歴代管理者・消防長等一覧表

(令和7年4月1日現在)

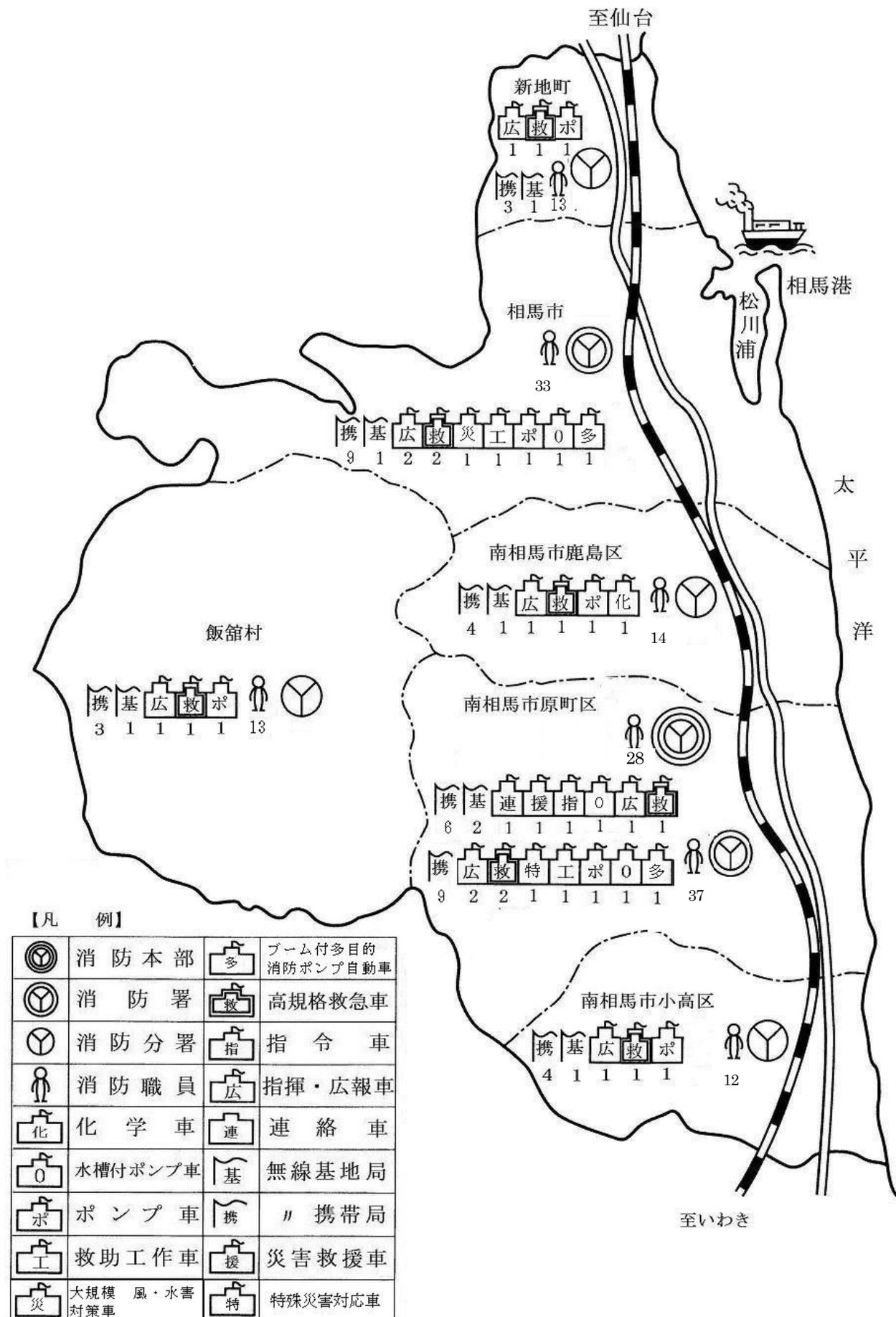
	管 理 者	消 防 本 部				相馬消防署 署 長	原町消防署 署 長
		消 防 長	次 長	総 務 課 長	消 防 課 長		
昭和47年度	山田 貢 (原町市長)	渡邊 清憲	岸 近			泉 茂	打田 勝喜
昭和48年度		岸 近	打田 勝喜				
昭和49年度	鈴木重郎治 (小高町長)		飯塚 盛男				飯塚 盛男
昭和50年度							
昭和51年度		吉田 嘉基					
昭和52年度	今野 繁 (相馬市長)	泉 茂	飯塚 盛男	泉 茂	吉田 信雄	橋 稔	鈴木 一男
昭和53年度							
昭和54年度							
昭和55年度		泉 茂	吉田 信雄	吉田 信雄	佐藤 芳夫		
昭和56年度							
昭和57年度							
昭和58年度		吉田 信雄	橋 稔	只野 清治	鈴木 一男	只野 清治	佐藤 芳夫
昭和59年度			鈴木 一男	荒 健二郎			
昭和60年度					荒 健二郎		
昭和61年度			只野 清治				
昭和62年度		鈴木 一男	佐藤 芳夫	佐藤 芳夫		鈴木 孝雄	
昭和63年度							
平成元年度							
平成2年度	門馬 直孝 (原町市長)	佐藤 芳夫	荒 健二郎	林 登喜夫	只野 清治	松田 武久	志賀 勝
平成3年度			只野 清治		本間 健一		
平成4年度					志賀 勝		
平成5年度		只野 清治	林 登喜夫	佐藤 正三	佐藤 正三	米山 光喜	
平成6年度				吉田 博			
平成7年度				本間 健一			
平成8年度		新谷 榮正		吉田 博	予防課長	警防課長	本間 健一
					高野 政利	佐藤 正三	
平成9年度	荒 和英 (新地町長)		佐藤 正三	萩原 勝	吉田 博	木村健次郎	仲野内 正
平成10年度			萩原 勝	米山 光喜	番場 秀秋	渡部 喜一	
平成11年度	鈴木 寛林 (原町市長)	萩原 勝	米山 光喜	渡部 喜一	新妻 智	西内 正雄	渡部 和俊
平成12年度		米山 光喜	渡部 喜一	森 茂雄			
平成13年度							
平成14年度	中野 一徳 (鹿島町長)		木村健次郎	渡部 和俊	森 茂雄	井上 秀雄	西内 正雄
平成15年度		木村健次郎	新妻 智	荒 重徳			
平成16年度			渡部 和俊	荒 重徳			

	管 理 者	消 防 本 部					相馬消防署 署 長	原町消防署 署 長
		消 防 長	次 長	総 務 課 長	予 防 課 長	警 防 課 長		
平成 17 年度	中野 一徳 (鹿島町長)	渡部 和俊	井上 秀雄	西内 正雄	菅野 幸一	福島 昭	森 茂雄	小椋 一男
平成 18 年度								南相馬消防署署長 (以降南相馬消防署になる)
平成 19 年度								
平成 20 年度								
平成 21 年度								
平成 22 年度	渡辺 一成 (原町市長) ※平成18年1月1日 から南相馬市長	井上 秀雄	西内 正雄	森 茂雄	村井 俊幸	渡部 信行	中塚 章一	渡部 純市
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	桜井 勝延 (南相馬市長)	山田 敏	高野 孝一	高野 孝一	只野 正夫	加藤 正人	齋藤 岩雄	佐藤 信義
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	小谷津芳秀	菅野 忠孝	菅野 忠孝	遠藤 吉行	須田 幸正	菅原 照見	高倉 健一
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	菅野 忠孝	菅原 照見	菅原 照見	高倉 健一	太田 秀明	瀬川 隆志	須田 幸正
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	菅原 照見	太田 秀明	太田 秀明	加藤 英喜	瀬川 隆志	五賀 和広	河村幸一郎
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	太田 秀明	五賀 和広	五賀 和広	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	五賀 和広	太田 修司	太田 修司	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	五賀 和広	太田 修司	太田 修司	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	五賀 和広	太田 修司	太田 修司	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	五賀 和広	太田 修司	太田 修司	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	五賀 和広	太田 修司	太田 修司	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	五賀 和広	太田 修司	太田 修司	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								
	門馬 和夫 (南相馬市長)	五賀 和広	太田 修司	太田 修司	脇本 昌弘	小泉 英明	高原 和博	佐々木弘光
平成 23 年度								
平成 24 年度								
平成 25 年度								
平成 26 年度								
平成 27 年度								
平成 28 年度								
平成 29 年度								
平成 30 年度								
令和 元 年度								
令和 2 年度								
令和 3 年度								
令和 4 年度								
令和 5 年度								
令和 6 年度								
令和 7 年度								

相馬地方広域消防組織図



相馬地方広域消防現勢分布図



相馬地方広域市町村圏勢の推移

区 分	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
面 積 (km ²)	873. ²⁰				
人 口	105,745	104,283	102,615	101,188	99,186
世 帯 数	43,293	43,351	43,356	45,377	43,277

(注)人口、世帯数は、4月1日現在の数値

消 防 予 算 の 推 移

区分 年度別	組合総予算額 (当 初) 千円	消防費予算額 (当 初) 千円	構 成 比 %	消 防 費	
				1世帯当り 円	人口1人当り 円
3	1,565,278	1,413,166	90.28	32,642	13,364
4	1,541,230	1,394,882	90.50	30,712	13,418
5	1,580,458	1,427,286	90.30	32,920	13,909
6	2,240,429	2,073,381	92.54	45,692	20,490
7	2,550,023	2,362,175	92.63	54,582	23,815

消 防 施 設 等 整 備 状 況

※ 1件百万円以上のもの

(令和6年度)

区 分	数 量	事業費(千円)	該 当 所 属
高規格救急自動車	一式	33,737	相馬消防署
救急資器材 12誘導心電図伝送システム (スクナSCUNA)	2台	4,939	相馬消防署・南相馬消防署
庁舎女子専用仮眠室工事	1	9,350	相馬消防署

消 防 庁 舎

区 分	所 在 地	敷地面積 (㎡)	延面積 (㎡)	構 造
消 防 本 部	南相馬市原町区高見町一丁目 272	7,561.16	2,792.15	鉄骨造・制震造 3 階建 (平成 27 年建築)
	TEL 0244-22-4164 4165 Fax 0244-22-5790			
相 馬 消 防 署	本 署 相馬市中野字堂ノ前 371-1	3,292.00	1,336.45	鉄筋コンクリート造 2 階建 (平成 22 年建築)
		TEL 0244-36-2181 2182 Fax 0244-35-6474		
	新地分署 相馬郡新地町中島一丁目 1	5,889.6	1,200.63	鉄骨造 2 階建 (新地町防災センター内) (平成 28 年建築)
		TEL 0244-62-2117 2118 Fax 0244-62-5060		
南 相 馬 消 防 署	本 署 消防本部に同じ (南相馬市消防・防災センター内)	TEL 0244-22-2186 2187 Fax 0244-26-0023		鉄骨造・制震造 3 階建 (平成 27 年建築)
		小高分署 南相馬市小高区本町二丁目 78	1,139.92	
	TEL 0244-44-2212 Fax 0244-44-2080			
	鹿島分署 南相馬市鹿島区江垂字大六天 122	4,380.00	755.55	鉄筋コンクリート造平屋建 (平成 29 年建築)
		TEL 0244-46-5118 5119 Fax 0244-46-1500		
	飯館分署 相馬郡飯館村草野字大師堂 14	1,579.39	430.19	鉄骨モルタル造一部 2 階建 (平成 28 年建築)
		TEL 0244-42-0119 0319 Fax 0244-42-1115		

職 員 配 置 状 況

(令和 7 年 4 月 1 日現在)

区 分		階級別	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
消 防 本 部	消 防 長	1								1
	次 長		1							1
	総 務 課			2	3				5	10
	予 防 課		1	2						3
	警 防 課		1	6	4	2				13
相 馬 消 防 署	本 署		1	5	14	5	6	2		33
	新 地 分 署			7	5		1			13
南 相 馬 消 防 署	本 署		1	4	15	5	9	3		37
	小 高 分 署			7	4		1			12
	鹿 島 分 署			6	5	3				14
	飯 館 分 署			6	6		1			13
計			1	5	45	56	15	18	10	150

階級別年齢状況

(令和7年4月1日現在)

階級別 年齢別	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
18才～20才							2	2
21～25						9	8	17
26～30					6	9		15
31～35				11	9			20
36～40				24				24
41～45				15				15
46～50			18	3				21
51～55		1	16	3				20
56才以上	1	4	11					16
計	1	5	45	56	15	18	10	150
平均	59.0	56.2	52.5	40.0	30.7	25.3	21.9	40.0

職員市町村別居住状況

(令和7年4月1日現在)

階級別 市町村別	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
相馬市		4	16	20	7	8	6	61
南相馬市	1		21	23	6	10	3	64
原町区			14	17	3	6	3	43
小高区			1	1		1		3
鹿島区	1		6	5	3	3		18
新地町		1	3	6	2		1	13
飯舘村			2					2
その他	県内		3	1				4
	県外			6				6
合計	1	5	45	56	15	18	10	150

階級・勤続年数別職員構成

(令和7年4月1日現在)

階級 勤続年数	消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	総数
	1	5	45	56	15	18	10	150
1年未満							5	5
1年							3	3
2年						2	1	3
3年						2	1	3
4年						4		4
5年						4		4
6年						3		3
7年					2			2
8年						3		3
9年					2			2
10年					2			2
11年				1	4			5
12年				7	1			8
13年				4	2			6
14年				1	2			3
15年				5				5
16年				8				8
17年				8				8
18年				4				4
19年				1				1
20年				4				4
21年				3				3
22年				1				1
23年			1	1				2
24年				1				1
25年			1	1				2
26年			2	1				3
27年			3	1				4
28年			4					4
29年			2					2
30年			1					1
31年			6	1				7
32年		2	8	3				13
33年			7					7
34年		1	1					2
35年			2					2
36年		2	1					3
37年								0
38年								0
39年			2					2
40年			2					2
41年以上	1		2					3

年度別職員研修状況

区 分		平成二七年度	平成二八年度	平成二九年度	平成三〇年度	令和元年度	令和二年度	令和三年度	令和四年度	令和五年度	令和六年度
消防 大学 校等	幹部研修科										
	幹部科		1		1						
	予防科			1							
	警防科							1			
	救急科	1					1		1		
	救助科					1				1	
	救急救命東京研修所	2	2	2	2	2	1	3	2	2	1
福 島 県 消 防 学 校	初任教育	3	3	3	3	3	4	5	3	3	3
	初級幹部科		1	1	1	1	1	1	1	1	1
	中級幹部科	1		1	1		1				
	救急科	6	6	8	6	6	6	6	4	3	3
	救命士養成補助教育	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2
	救急救命士処置拡大講習		4	4	4	3					
	火災調査科		2	2	2	2	2	2	2		1
	救助科		2	2	2	2	2	2	2	2	2
	警防科	2	2		2		2	2	2		2
	予防査察科		2		2		2	2	2	2	2
	指揮隊長科	2	2	2	2	2	2				2
	通信指令科								2	2	1
	放射線基礎研修		6	6	9	7	9				
その他	12		12	10	10	2				4	4
病 院 研 修 等	気管挿管病院実習（30症例）		1							1	
	救急救命士就業前研修		2	3	2	2	2	1	4	3	3
	指導者生涯研修		1	1	1	1	1	3			
	救急隊員病院研修		3	3	3	3	3	3	4	3	3
	救急救命士生涯研修		5	5	5	5	5	5	5	5	5
	ビデオ硬性気管挿管実習（5症例）		2								1
自 治 研 修 セ ン タ ー 等	消防救急緊急自動車運転技能者課程	1	1								
	管理者研修（危機管理コース）	1	1	1	1	1	1		1	1	1
	管理者研修（マスメディア対応コース）		1	1	1						
	新任係長講座				1	1	2	3	2	2	2
	新任管理者講座				1	1	2	3	2	2	2
	人事評価制度講座	3	6	6	6	4	4	2	2	3	
	メンタルトレーニング実践講座	2		1	1	1	1	1			
	住民サービス向上のための接遇実践講座		2	2	2	2	2	2	2	4	
	メンタルヘルス講座（予防編）		2	2	2	2	2				
	メディアトレーニング講座					1	1				
	有事の危機管理講座		1								
	情報セキュリティ対策基礎										
	レジリエンス講座								1	1	
エクセル講座											
計	38	63	71	75	65	63	49	46	49	40	

職員特殊技能その他の資格取得状況

(令和7年4月1日現在)

		消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	計
大型自動車 (11t以上)	2種		1	4					5
	1種	1	4	41	56	15	14		131
中型自動車 (11t未満)	2種								
	1種								
準中型自動車 (8t未満)	2種	/	/	/	/	/	/	/	/
	1種							1	1
普通自動車 (3.5t未満)	2種								
	1種						4	9	13
自動車2輪車			1	23	20	3	3	1	51
大型特殊自動車			3	7	6	2			18
けん引自動車			1	2	1				4
危険物取扱者	甲種				1				1
	乙種	1	1	32	40	11	8	1	94
	丙種		3	1	1			1	6
消防設備士	甲種			2					2
	乙種			8	6				14
予防技術資格者	防火		1	8	14	5			28
	設備		1	4	7	1			13
	危険物			3	11	4	1		19
救急救命士		1	3	20	22	1	3	2	52
救急科(Ⅱ課程・標準課程含)			2	24	33	14	15	4	92
救急Ⅰ課程				2					2
特殊無線技士		1	1	30	35	13	15	5	100
アマチュア無線技士				5					5
電気工事士		1		1	8	1		1	12
ガス溶接			2	12	10	1	1	2	28
小型船舶操縦士			3	16	19	3			41
移動式クレーン特別教育		1	5	37	51	12	2		108
玉掛技能		1	3	40	51	12	1		108
クレーン運転士				2					2
潜水士				3	1				4
高所作業車技能講習			2	7	25	6			40
毒・劇物取扱者			1		1				2
車両系建設機械技能講習			3	4	3				10
第2種酸欠作業技能講習			1	5	5				11

消防相互応援協定状況

協 定 機 関	協 定 内 容	協 定 年 月 日
双葉地方広域市町村圏組合	火災救急相互応援	昭和48年4月1日
伊達地方消防組合	火災救急相互応援	昭和48年9月1日
亘理地区行政事務組合	火災救急相互応援	昭和49年1月1日
仙南地域広域行政事務組合	火災救急相互応援	昭和49年6月1日
福島・宮城広域災害時相互応援協定	物資等相互応援	平成8年8月28日
福島地方広域行政圏（17市町村）		
仙南地域広域行政圏（9市町村）		
亘理名取広域行政圏（2市2町）		
相馬地方広域市町村圏組合（6市町村）		
福島・宮城・山形5広域圏災害時相互応援協定	物資等相互応援	平成9年1月16日
福島地方広域行政圏（17市町村）		
仙南地域広域行政圏（9市町村）		
亘理名取広域行政圏（2市2町）		
相馬地方広域市町村圏組合（6市町村）		
置賜広域行政圏（8市町村）		
福島県広域消防相互応援 県内12市町村圏組合協定	大規模・特殊災害 相互応援	平成10年1月1日
火災原因調査に係る相互応援協定 県内12市町村圏組合	火災調査	平成12年4月1日
双葉地方広域市町村圏組合	常磐自動車道消防相互応援	平成26年8月8日
伊達地方消防組合	東北中央自動車道 (相馬福島道路)消防相互応援	平成30年3月1日
亘理地区行政事務組合	常磐自動車道消防相互応援	令和4年3月25日



予 防 統 計



防火対象物の現況

(令和6年度)

種 別			防火対象物数			防火管理者を必要とする対象物		
			特定防火 対象物	非特定防火 対象物	計	甲 種	乙 種	
1	イ	劇 場 等	10		10	8		
	ロ	公 会 堂 等	68		68	44	16	
2	イ	キ ャ バ レ ー 等						
	ロ	遊 技 場 等	9		9	9		
	ハ	性 風 俗 関 連 特 殊 営 業 営 む 店 舗 等						
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等	4		4	3		
3	イ	料 理 店 等	1		1			
	ロ	飲 食 等	84		84	21	32	
4		店 舗 等	220		220	106	47	
5	イ	旅 館 等	490		490	56	3	
	ロ	共 同 住 宅 等		621	621	49	3	
6	イ	病 院 等	(1)	11		11	9	
			(2)	1		1	1	
			(3)	7		7	7	
			(4)	51		51	10	3
	ロ	重 度 老 人 福 祉 施 設 等	(1)	33		33	24	
			(2)					
			(3)					
			(4)					
			(5)	3		3	1	
	ハ	軽 度 老 人 福 祉 施 設 等	(1)	30		30	19	2
			(2)					
			(3)	37		37	27	4
			(4)	10		10	1	
			(5)	47		47	4	3
	ニ	幼 稚 園 等	16		16	13		
7		学 校		134	134	59		
8		図 書 館 等		12	12	5		
9	イ	特 殊 浴 場	1		1			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場		2	2	1		
10		停 車 場 等		3	3			
11		神 社 等		54	54	13	5	
12	イ	工 場 等		678	678	56		
	ロ	映 画 ス タ ジ オ 等				2		
13	イ	車 庫 等		42	42			
	ロ	飛 行 機 格 納 庫		1	1			
14		倉 庫		398	398	5	1	
15		事 業 所		769	769	128	28	
16	イ	一 部 特 防 (含)	153	13	166	108	11	
	ロ	そ の 他 の 複 合 用 途		72	72	16		
17		文 化 財		3	3			
合 計			1,286	2,802	4,088	805	158	

防火対象物立入検査状況

(令和6年度)

項別		種別	対象物件数				実施件数				警告書 件数	結 果 通知 書数	改 善 件 数
			I種	II種	III種	特別	I種	II種	III種	特別			
1	イ	劇場等	3	4	1		3				2	2	
	ロ	公会堂等	1	40	21	6	1	17	4		11	1	
2	イ	キャバレー等											
	ロ	遊技場等	1	8			1	4					
	ハ	性風俗関連特殊営業 営む店舗等											
3	イ	料理店等		1									
	ロ	飲食等		23	38	23		10	5	4	9	5	
4		店舗等	24	93	15	88	16	22	2	3	15	7	
5	イ	旅館等	27	194	221	41	26	103	28		23	4	
	ロ	共同住宅等		181	240	206		119	24	1	16	2	
6	イ	病院等	(1)	11				11				3	1
			(2)	1				1					
			(3)	1	6			1	4			1	
			(4)	6	34	12	1	6	9	1		2	1
	ロ	重度老人福祉 施設等	(1)	27	6			21	2			1	
			(2)										
			(3)										
			(4)										
			(5)	2				2					
	ハ	軽度老人福祉 施設等	(1)	3	26		1	1	10			2	
			(2)										
			(3)	36	1			34				4	1
			(4)	1	6		3	1	1				
			(5)	4	39		4	4	9			5	3
	ニ	幼稚園等	16				16				3	2	
7		学 校	133			1	113			10	4		
8		図書館等		5	6	1		3	3		2	1	
9	イ	特殊浴場			1								
	ロ	イ以外の公衆浴場		2				1					
10		停車場等		1	1	1							
11		神社等		6	36	12			9	3			
12	イ	工場等	66	444	91	79	44	146	22	1	37	17	
	ロ	映画スタジオ等											
13	イ	車庫等	6	21	7	8	4	2	1	1	2		
	ロ	飛行機格納庫		1									
14		倉 庫	53	190	67	86	34	66	12	3	15	6	
15		事業所	128	283	178	180	71	91	19	11	25	10	
16	イ	一部特防(含)	8	107	34	17	7	22	7	2	9		
	ロ	その他の複合用途	6	31	18	17	6	11	7		3		
17		文化財			3				2				
合 計			564	1,756	991	775	424	653	146	29	200	67	
一 般 家 庭			世帯数	43,277				立入検査実施件数				0	

※実施規定 I種査察は年1回以上、II種査察は3年に1回以上、III種査察は5年に1回以上の実施。

※一般家庭の世帯数は、市区町村内全部の世帯数を記入のこと。

甲種防火管理者新規（再）講習実施状況

実施年月日	修了証交付者数	実施年月日	修了証交付者数
昭和49年～昭和62年	1,615	平成22年7月9日	86
昭和63年10月5日	102	平成22年12月2日 (再講習)	14
平成元年10月5日	107	平成23年10月6日	55
平成2年10月2日	134	平成23年12月2日 (再講習)	21
平成3年10月8日	117	平成24年7月12日	69
平成4年10月7日	110	平成24年12月5日 (再講習)	19
平成5年10月7日	90	平成25年7月5日	75
平成6年10月7日	94	平成25年12月5日 (再講習)	12
平成7年10月5日	127	平成26年7月3日	88
平成8年10月17日	94	平成26年12月4日 (再講習)	11
平成9年10月16日	110	平成27年7月10日	86
平成10年10月8日	107	平成27年12月3日 (再講習)	28
平成11年10月7日	93	平成28年7月8日	80
平成12年10月12日	86	平成28年12月2日 (再講習)	12
平成13年7月8日	95	平成29年7月10日	98
平成13年10月3日	126	平成29年12月7日 (再講習)	13
平成14年7月14日	90	平成30年7月6日	112
平成14年10月4日	66	平成30年11月30日 (再講習)	12
平成15年7月13日	89	令和元年7月5日	86
平成15年10月17日	73	令和元年11月29日 (再講習)	11
平成16年7月17日	79	令和2年度の新規・再講習は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
平成16年10月17日	40	令和3年9月28日	70
平成17年7月10日	62	令和3年12月2日 (再講習)	37
平成17年12月7日	44	令和4年8月5日	75
平成18年7月12日	83	令和4年12月6日 (再講習)	17
平成18年12月6日 (再講習)	48	令和5年9月8日	74
平成19年7月11日	87	令和5年12月6日 (再講習)	17
平成19年12月5日 (再講習)	9	令和6年8月2日	76
平成20年7月10日	85	令和6年12月5日 (再講習)	11
平成20年12月4日 (再講習)	8		
平成21年7月9日	82		
平成21年12月3日 (再講習)	4	合 計	5,521

防火対象物定期点検報告制度実務状況

(令和6年度)

項 別		類 別	点検を要する 防火対象物数		点検報告件数		認定件数		
			第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	
1	イ	劇 場 等	8		6		1		
	ロ	公 会 堂 等	32		19		6		
2	イ	キ ャ バ レ ー 等							
	ロ	遊 技 場 等	8				3		
	ハ	性風俗関連特殊営業 営 む 店 舗 等							
	ニ	カラオケボックス等							
3	イ	料 理 店 等							
	ロ	飲 食 等	1		1				
4		店 舗 等	29		20		8		
5	イ	旅 館 等	5	3	4		1	2	
	ロ	共 同 住 宅 等							
6	イ	病 院 等	(1)	7		2		4	
			(2)		1		1		
			(3)	1	1			2	
			(4)	1				1	
	ロ	重 度 老 人 福 祉 施 設 等	(1)						
			(2)						
			(3)						
			(4)						
			(5)						
	ハ	軽 度 老 人 福 祉 施 設 等	(1)	1		1			
			(2)						
			(3)	1				1	
			(4)						
			(5)						
	ニ	幼 稚 園 等							
	7		学 校						
8		図 書 館 等							
9	イ	特 殊 浴 場							
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場							
10		停 車 場 等							
11		神 社 等							
12	イ	工 場 等							
	ロ	映 画 ス タ ジ オ 等							
13	イ	車 庫 等							
	ロ	飛 行 機 格 納 庫							
14		倉 庫							
15		事 業 所							
16	イ	一 部 特 防 (含)	4		3				
	ロ	そ の 他 の 複 合 用 途							
17		文 化 財							
合 計			98	5	56	1	27	2	

防火対象物階層別調

(令和6年度)

項別		階層別		1階	2階	3階	4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階	11階以上	計		
1	イ	劇場等		2	4	1	1									8	
	ロ	公会堂等		50	17		1									68	
2	イ	キャバレー等															
	ロ	遊技場等		7	2											9	
	ハ	性風俗関連特殊営業 営む店舗等															
	ニ	カラオケボックス等		1	3											4	
3	イ	料理店等			1											1	
	ロ	飲食等		43	37	4										84	
4		店舗等		184	34	2	1									221	
5	イ	旅館等		378	89	2	5	5	3	3	2	1	1			489	
	ロ	共同住宅等		129	276	144	40	30	1							620	
6	イ	病院等	(1)		1		4	2	3	1						11	
			(2)			1										1	
			(3)		4	2	1									7	
			(4)	17	30	3	1									51	
	ロ	重度老人福祉施設等	(1)	22	5	3	1	1									32
			(2)														
			(3)														
			(4)														
			(5)	1	1												2
	ハ	軽度老人福祉施設等	(1)	21	9												30
			(2)														
			(3)	26	11												37
			(4)	9	1												10
			(5)	19	28												47
ニ	幼稚園等		12	4											16		
7		学校		42	59	33	2									136	
8		図書館等		6	5		1									12	
9	イ	特殊浴場			1											1	
	ロ	イ以外の公衆浴場		2												2	
10		停車場等		3												3	
11		神社等		38	18											56	
12	イ	工場等		449	205	18	6	2								680	
	ロ	映画スタジオ等															
13	イ	車庫等		38	4											42	
	ロ	飛行機格納庫			1											1	
14		倉庫		297	95	3	1									396	
15		事業所		389	295	51	20	6	4	3		1				769	
16	イ	一部特防(含)		29	89	36	4	2								160	
	ロ	その他の複合用途		14	44	10	1			1	1					71	
17		文化財		3												3	
合		計		2,231	1,373	313	90	48	11	8	3	2	1		4,080		

市町村別建築同意処理状況

(令和6年度)

市区町村別		工事種別						計
		新築	増築	改築	その他	移転	用途変更	
南相馬市	原町区	59	30				2	91
	小高区	15	6					21
	鹿島区	6	7					13
	計	80	43				2	125
相馬市		35	18	1				54
新地町		13	6					19
飯舘村		1						1
合計		209	110	1	0	0	4	324

所属別建築同意処理状況

所属別		種別				計
		専用住宅	併用住宅	特殊建築物	その他	
南相馬消防署		25		28	38	91
小高分署		1	1	9	10	21
鹿島分署		5		5	3	13
飯舘分署				1		1
相馬消防署		13		35	8	56
新地分署		2		10	7	19
合計		46	1	88	66	201

火災予防条例に基づく届出件数

(令和6年度)

所属別 類別		相馬消防署		南相馬消防署			計	
		本署	新地分署	本署	小高分署	鹿島分署		飯館分署
圧縮アセチレンガス			1		1		1	3
液化石油ガス		10		22		2	1	35
防火管理	防火対象物使用開始届	51	10	53	14	3	9	140
	消防計画書	68	17	91	14	21	5	216
電気・火気使用等	熱風炉・かまど・ボイラー	3		6	1		1	11
	乾燥設備・火花を生じる機械設備			4	1			5
	急速充電・燃料電池発電設備			1		4		5
	変電・発電・蓄電池設備	22	1	31	4	4	3	65
	ネオン管灯設備							
	水素ガスを充填する気球							
各種届出等	火災とまぎらわしい行為の届出	23	7	42	25	31	2	130
	煙火打上	13	7	6	3	6	4	39
	催物開催	8					1	9
	水道断水・減水	4						4
	道路工事	40	23	29	14	12	9	127
	露店等の開設	8	13	18	3	4	10	56
危険物等	少量危険物	17	3	24	9	4	6	63
	指定可燃物	4	4	3				11
	毒物・劇物	2						2
合計		273	86	330	89	91	52	921



危險物統計



市町村別危険物施設数

(令和6年度)

施設別 市区町村別		製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所					合 計	
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所		小 計
相馬市		3	34	48		35		66	11	194	22			49	71	268
南 相 馬 市	原町区	8	29	41	1	38	1	34	6	150	38			38	76	234
	小高区		7	11		5		7		30	3			9	12	42
	鹿島区		5	3		7		15		30	11			5	16	46
	計	8	41	55	1	50	1	56	6	210	52			52	104	322
新地町			6	12		10		7		35	6			14	20	55
飯舘村				4		3		11		18	4			4	8	26
合 計		11	81	119	1	98	1	140	17	457	84			119	203	671

※ 特定屋外タンク貯蔵所

- ① 相馬共同火力発電所
重油 20,003Kℓ 2基
- ② 東北電力原町火力発電所
軽油 2,980Kℓ 2基

数量別危険物施設数

(令和6年度)

施設別 数量別	製造所	貯蔵所							取扱所					合計	
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	一般取扱所		小計
5倍以下		41	19		59	1	113	1	234	3			45	48	282
5～10		18	15	1	20		5	4	63	1			24	25	88
10～50	3	17	52		14		4	6	93	29			33	62	158
50～100	7	1	11		3		16		31	9			9	18	56
100～150		2	4		1		2		9	7			2	9	18
150～200		2	2					6	10	16				16	26
200～1,000	1		12		1				13	19			1	20	34
1,000～5,000			2						2				5	5	7
5,000～10,000															
10,000倍を超えるもの			2						2						2
合計	11	81	119	1	98	1	140	17	457	84			119	203	671

類別危険物施設数

(令和6年度)

種類	施設別	製造所	貯 蔵 所							取 扱 所					合計	
			屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	一般取扱所		小計
単独	第一類		1							1					1	
	第二類	1	3	1						4			1	1	6	
	第三類															
	第四類	4	69	115	1	98	1	140	17	441	84		106	190	635	
	第五類		2	1						3			1	1	4	
	第六類			2						2			4	4	6	
混在		6	6							6			7	7	19	
合計		11	81	119	1	98	1	140	17	457	84		119	203	671	

施設別許可・完成検査・廃止届件数

(令和6年度)

施設別 届出別		製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所					合 計
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク 貯蔵所	屋 内 タンク 貯蔵所	地 下 タンク 貯蔵所	簡 易 タンク 貯蔵所	移 動 タンク 貯蔵所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
許 可	設置		2	3				2		7			1	1	8
	変更	3		8		3		6		17	13		23	36	56
完 成 検 査	設置		3	3				2		8			1	1	9
	変更	3		8		3		5		16	13		23	36	55
廃止届				4		7		4	1	16	2		2	4	20



火災統計

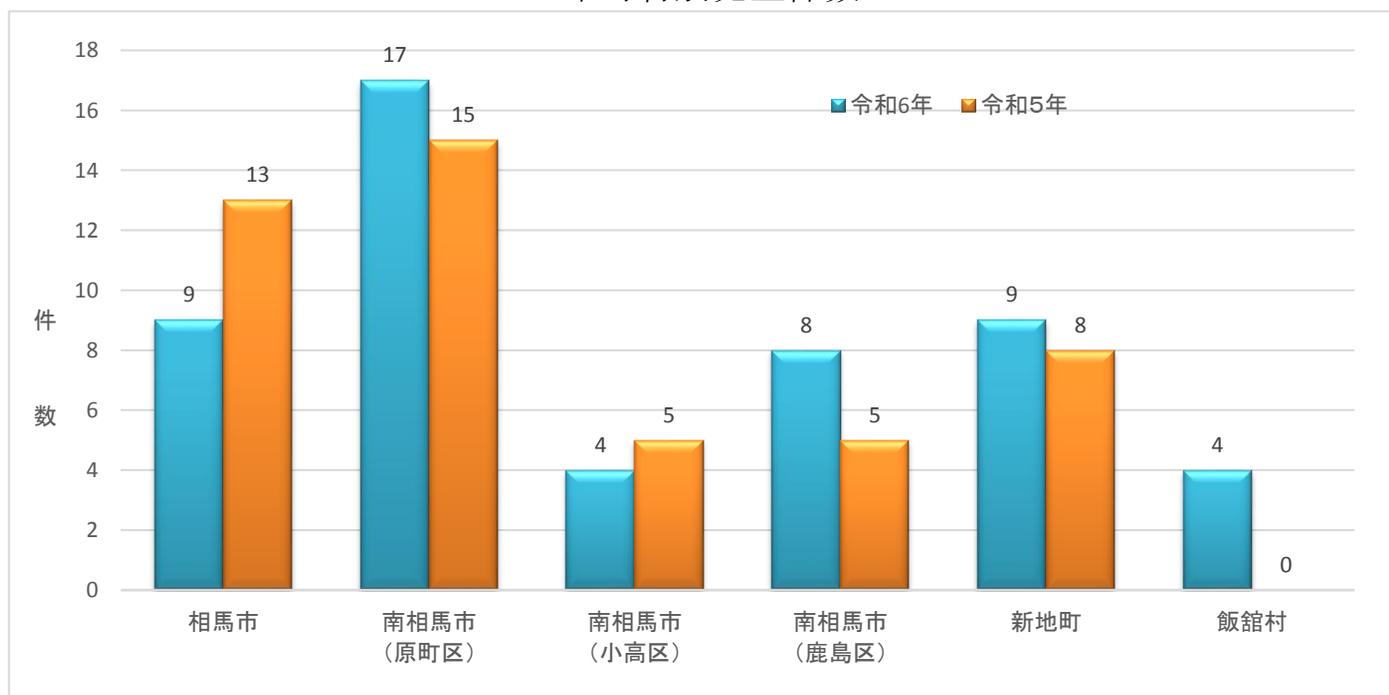


火 災 発 生 状 況

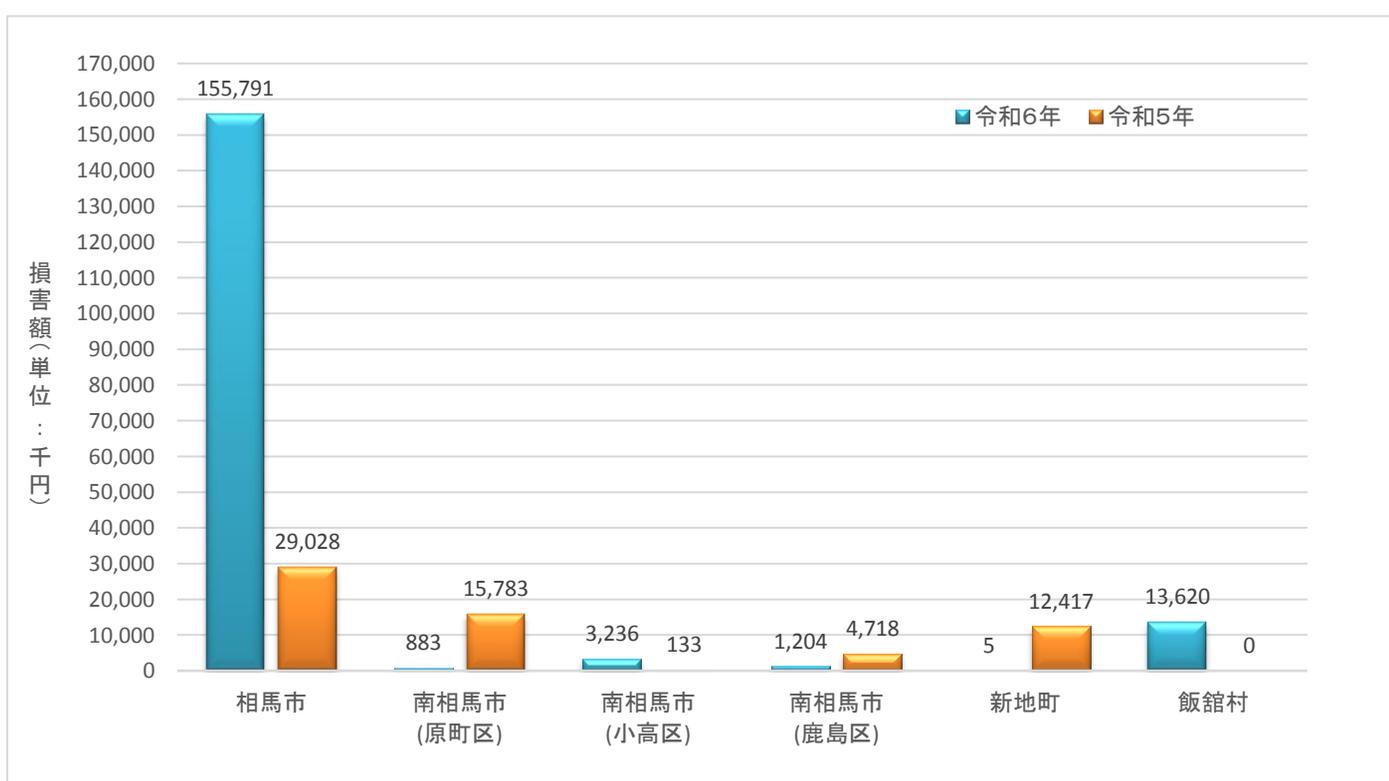
(令和6年)

1	火 災 件 数	51 件
2	損 害 額	174,739 千円
3	建 物 焼 失 床 面 積	4,353 m ²
4	林 野 焼 失 面 積	25 a
5	焼 死 者	2 名
6	負 (火) 傷 者	3 名

市町村別発生件数



市町村別損害額



市町村別火災発生状況

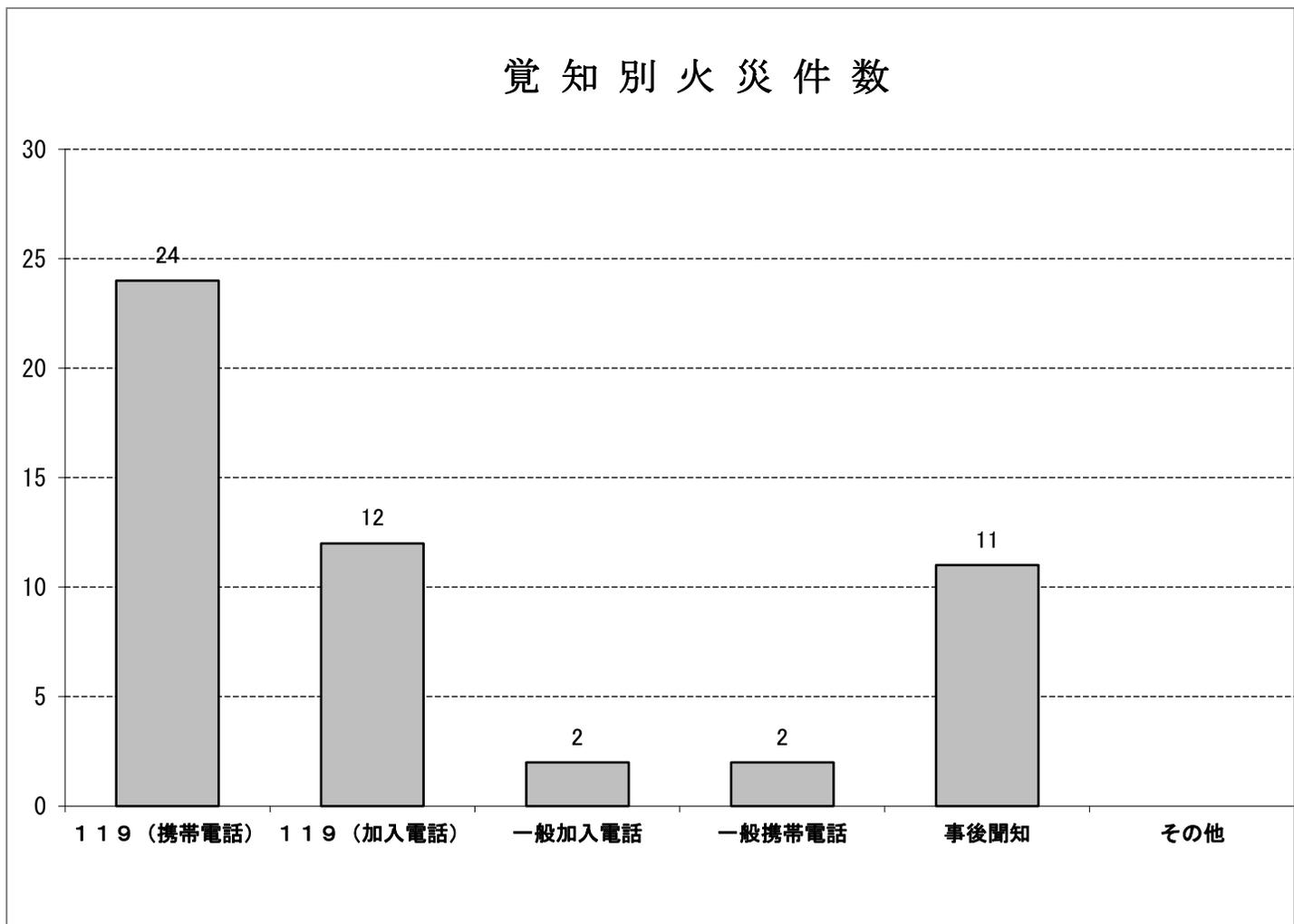
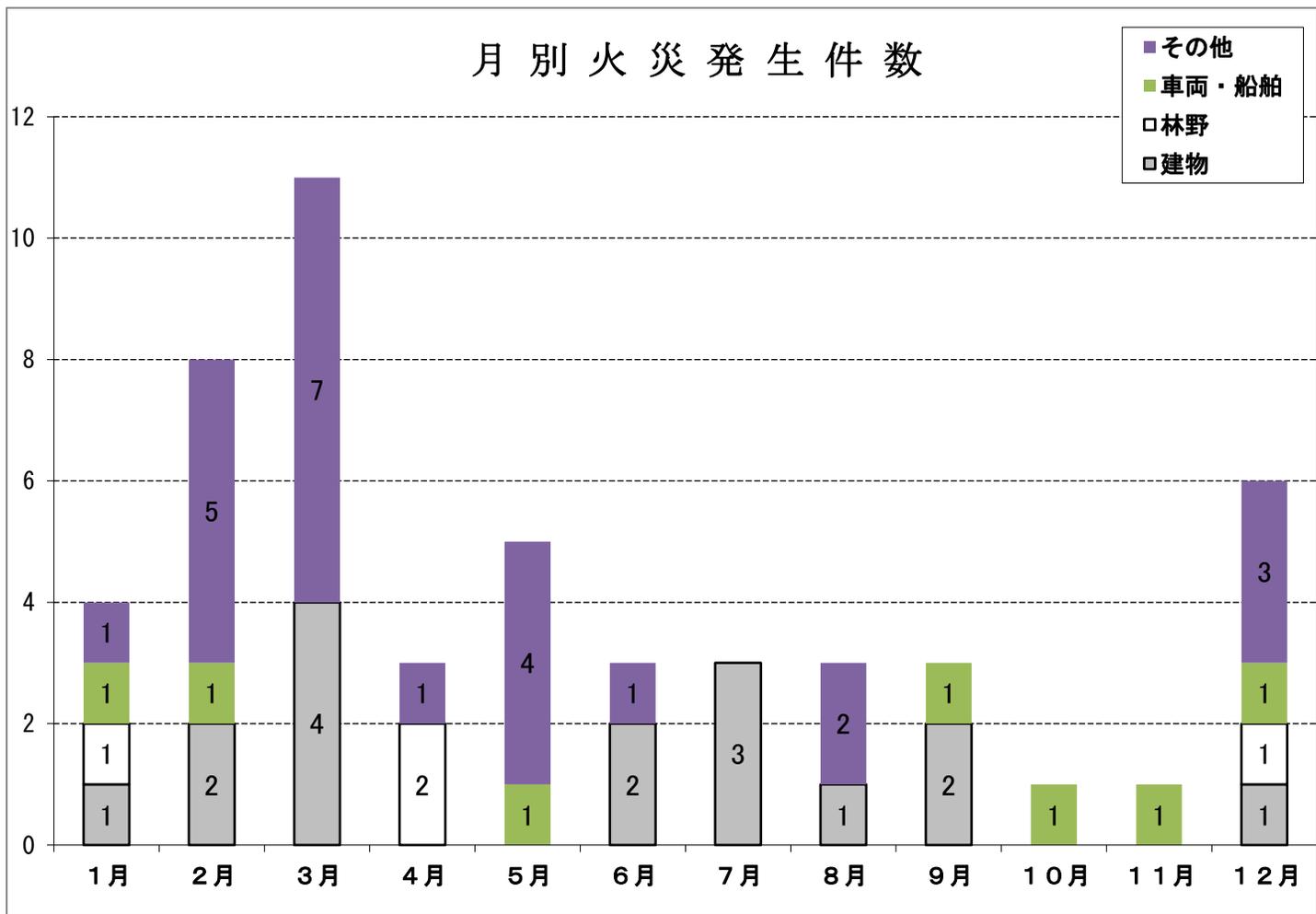
(令和6年)

種別		市町村別						計	
		相馬市	(南相馬市) 原町区	(南相馬市) 小高区	(南相馬市) 鹿島区	新地町	飯舘村		
発生件数		9	17	4	8	9	4	51	
火災種別	建物火災	4	6	1	4	1		16	
	林野火災		1		1		2	4	
	車両火災	3	1	2	1			7	
	船舶火災							0	
	その他の火災	2	9	1	2	8	2	24	
焼損棟数	火元棟	全焼	2	1	1	1	0	0	5
		半焼	1	0	0	0	0	0	1
		部分焼	0	1	0	2	0	0	3
		ぼや	1	4	0	0	1	0	6
	類焼棟	全焼	0	1	0	1	0	0	2
		半焼	2	0	0	0	0	0	2
		部分焼	4	0	0	1	0	0	5
		ぼや	0	1	0	1	0	0	2
り災世帯	全損	1	0	0	0	0	0	1	
	半損	1	0	0	0	0	0	1	
	小損	1	4	0	2	1	0	8	
	り災人員	9	8	0	3	1	0	21	
死傷者	死者	1	1	0	0	0	0	2	
	負傷者	2	0	0	1	0	0	3	
焼失面積	建物	床面積 (㎡)	4,193	64	6	90	0	0	4,353
		表面積 (㎡)	47	1	0	11	0	1	60
	林野 (a)	2	12	0	5	0	6	25	
火災損害額 (単位/千円)	建物	114,848	411	69	979	1	0	116,308	
	内容物	40,664	238	14	35	4	0	40,955	
	林野	0	0	0	0	0	0	0	
	車両	250	200	3,153	190	0	0	3,793	
	船舶	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	29	34	0	0	0	13,620	13,683	
	計	155,791	883	3,236	1,204	5	13,620	174,739	

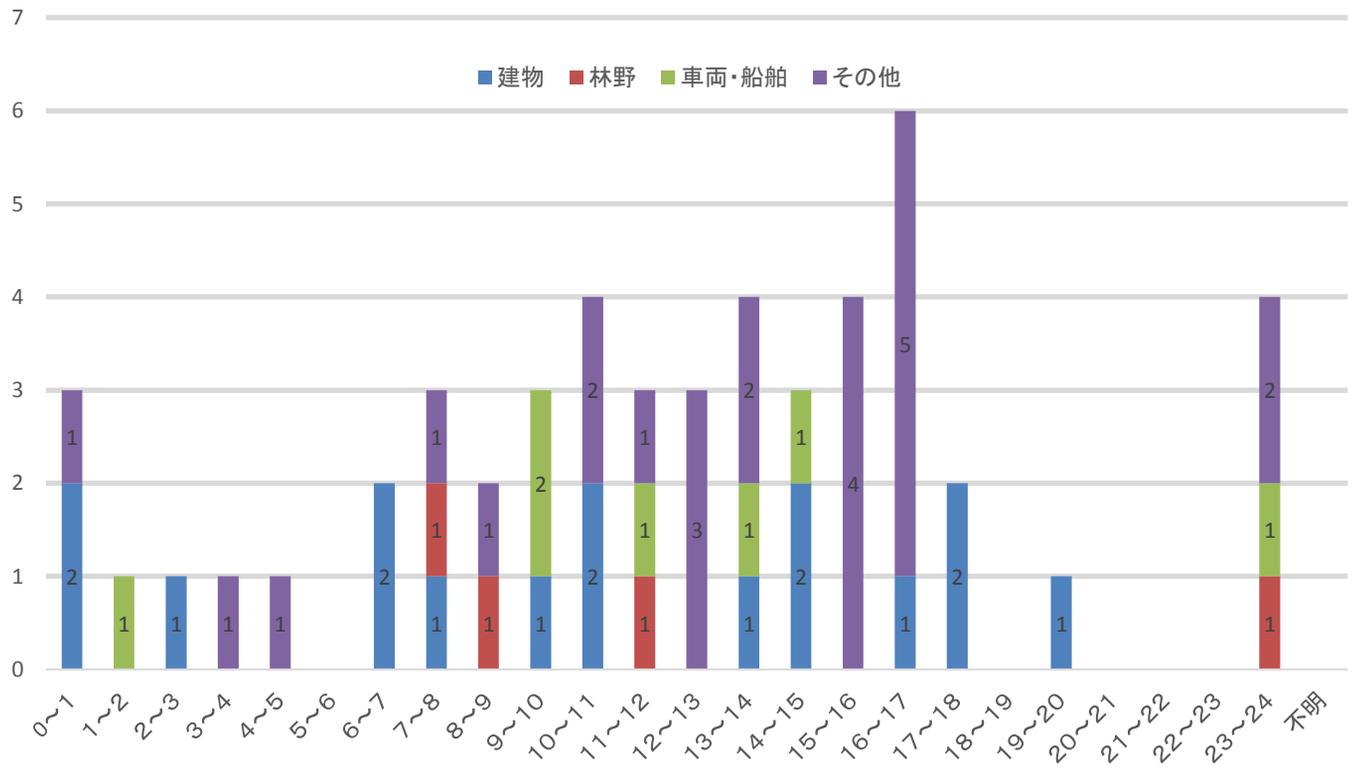
月別火災発生状況

(令和6年)

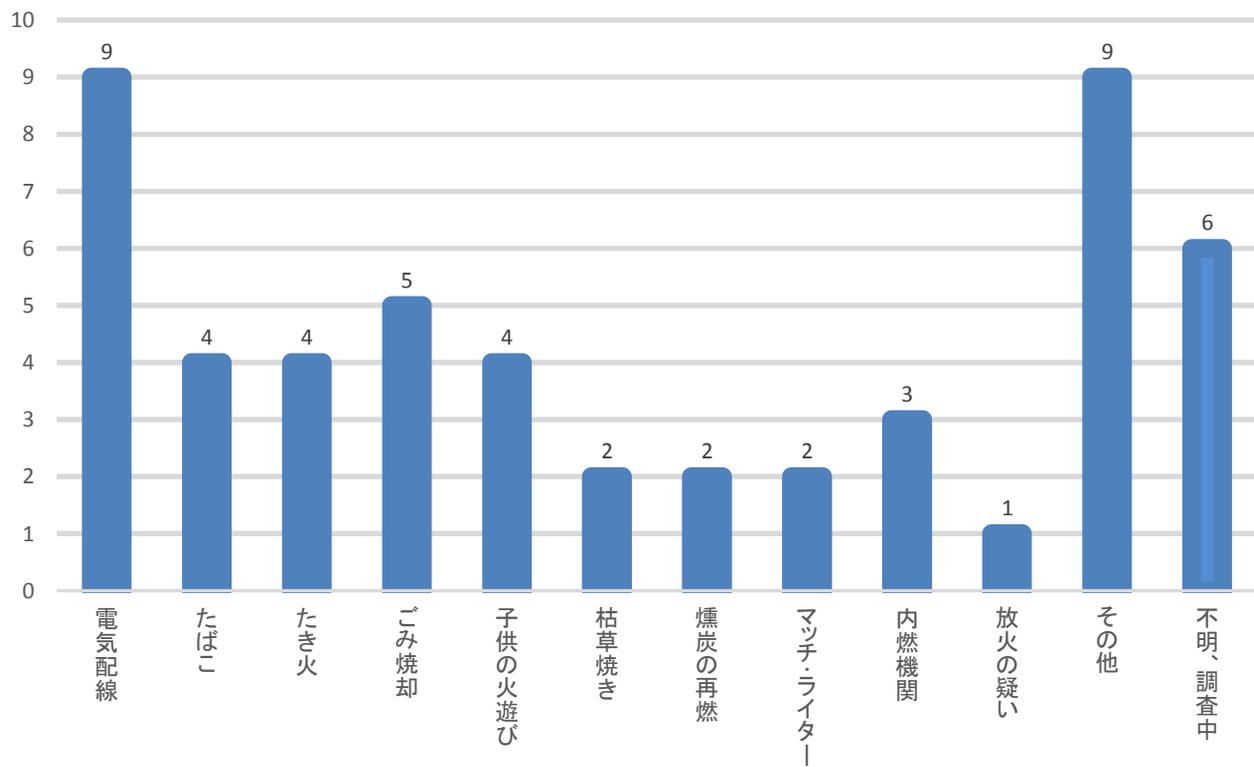
種別		月別												計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
発生件数		4	8	11	3	5	3	3	3	3	1	1	6	51	
火災種別	建物火災	1	2	4			2	3	1	2			1	16	
	林野火災	1			2								1	4	
	車両火災	1	1			1				1	1	1	1	7	
	船舶火災														
	その他の火災	1	5	7	1	4	1		2				3	24	
焼損棟数	火元棟	全焼		1	1				1	1			1	5	
		半焼			1									1	
		部分焼			1			1		1				3	
		ぼや	1	1	1			1	2					6	
	類焼棟	全焼							1					1	2
		半焼		1						1				2	
		部分焼	1	3									1	5	
		ぼや							1				1	2	
り災世帯	全損								1				1		
	半損			1									1		
	小損		1	2			1	2	1			1	8		
	り災人員	0	3	7	0	0	2	3	2	3	0	0	1	21	
死傷者	死者			1						1			2		
	負傷者		1							2			3		
焼失面積	建物	床面積 (㎡)	1	3,925	29				63	245			90	4,353	
		表面積 (㎡)	5	42	1			4		3			5	60	
	林野 (a)	5	2	0	13								5	25	
火災損害額 (単位/千円)	建物	26	107,867	2,711	0	0	12	1	385	4,334	0	0	972	116,308	
	内容物	0	39,631	214	0	0	0	24	238	848	0	0	0	40,955	
	林野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	車両	105	110	0	0	121	0	0	0	200	190	35	3,032	3,793	
	船舶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	24	29	0	0	6	0	0	0	0	0	0	13,624	13,683	
計	155	147,637	2,925	0	127	12	25	623	5,382	190	35	17,628	174,739		



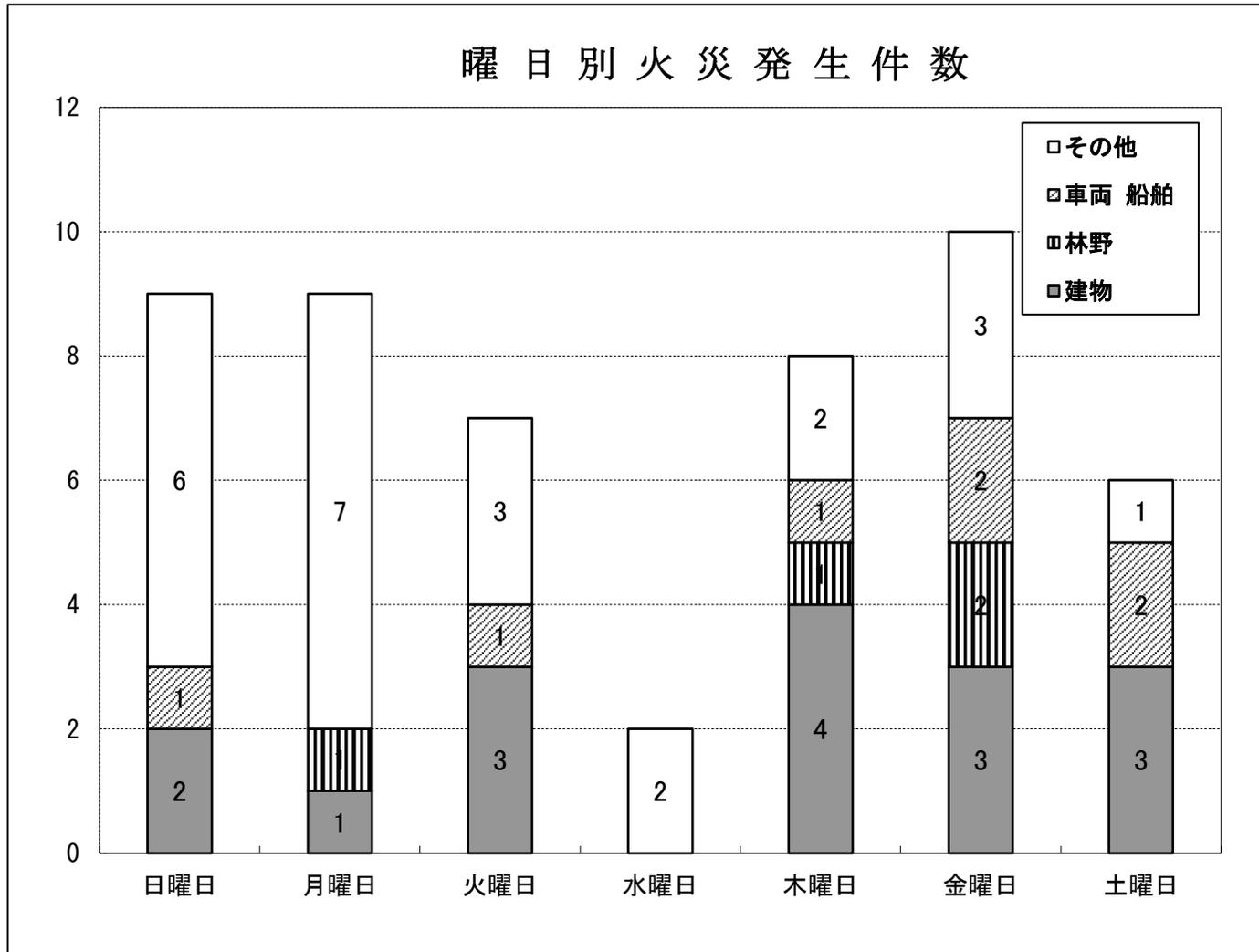
時間別火災発生件数



原因別火災件数



曜日別火災発生件数



過去5年間の火災発生状況

年別 区分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
火災件数	24	43	34	46	51
人口	107,273	105,745	103,954	102,615	100,482
出火率 (人口1万人当り)	2.2	4.0	3.3	4.5	5.1
損害額(千円)	70,949	40,691	52,702	62,079	174,739
火災一件当りの 損害額(千円)	2,956	969	1,550	1,350	3,426
建物火災一件当り の焼損床面積(m ²)	89	143	91	86	272
建物火災一件当り の損害額(千円)	6,048	4,069	2,729	3,200	9,829
林野火災一件当り の焼損面積(a)	0	125	0.7	61	6.3
林野火災一件当り 損害額(千円)	0	1	0	1	0



警 防 統 計



消 防 活 動 状 況 (1)

(令和6年)

種 別 \ 署分署別		相 馬 消 防 署		南 相 馬 消 防 署			合 計	
		本 署	新地分署	本 署	小高分署	鹿島分署		飯館分署
建 物 火 災	出 動 件 数	8	2	9	5	9	33	
	延 人 員 数	84	8	72	16	29	209	
	車 両 延 台 数	28	2	22	5	12	69	
	活 動 延 時 間	21:08	5:45	16:39	8:26	37:36	89:34	
林 野 火 災	出 動 件 数	2		3		2	2	9
	延 人 員 数	12		34		9	30	85
	車 両 延 台 数	4		10		3	8	25
	活 動 延 時 間	5:56		8:50		7:42	3:26	25:54
車 両 火 災	出 動 件 数	4		3	1	1		9
	延 人 員 数	39		30	5	3		77
	車 両 延 台 数	13		9	1	1		24
	活 動 延 時 間	5:25		5:28	1:26	0:38		12:57
船 舶 火 災	出 動 件 数							
	延 人 員 数							
	車 両 延 台 数							
	活 動 延 時 間							
そ の 他 の 火 災	出 動 件 数	12	8	11	2	14	2	49
	延 人 員 数	74	31	72	7	53	9	246
	車 両 延 台 数	24	9	23	2	14	2	74
	活 動 延 時 間	14:23	11:04	7:16	1:16	15:34	4:19	53:52
偵 察 出 動	出 動 件 数	3	2		2		1	8
	延 人 員 数	19	8		7		3	37
	車 両 延 台 数	6	2		2		1	11
	活 動 延 時 間	2:19	0:46		1:10		0:45	5:00
風 水 害 等	出 動 件 数							
	延 人 員 数							
	車 両 延 台 数							
	活 動 延 時 間							
警 防 調 査	出 動 件 数	4	2	11	1	1	3	22
	延 人 員 数	57	17	62	8	7	22	173
	車 両 延 台 数	16	6	19	2	1	6	50
	活 動 延 時 間	9:00	1:40	21:05	1:00	1:00	3:00	36:45
訓 練 指 導	件 数	141	45	111	13	42	30	382
	延 人 員 数	429	158	284	53	184	115	1223
	車 両 延 台 数	157	54	118	23	73	21	446
	活 動 延 時 間	114:15	47:55	91:50	8:35	37:40	49:45	350:00

消 防 活 動 状 況 (2)

(令和6年)

署分署別 種 別		相 馬 消 防 署		南 相 馬 消 防 署				合 計
		本 署	新地分署	本 署	小高分署	鹿島分署	飯館分署	
広 報	出 動 件 数	8	9	9	6	8	3	43
	延 人 員 数	21	9	17	18	14	4	83
	車両延台数	9	9	9	10	10	3	50
	活動延時間	8:25	9:00	10:10	6:10	6:55	3:30	44:10
特 別 警 戒	出 動 件 数	115	104	49	40	52	37	397
	延 人 員 数	307	267	126	106	85	75	966
	車両延台数	117	152	50	58	63	48	488
	活動延時間	112:50	90:35	50:05	44:00	54:55	43:25	395:50
捜 索	出 動 件 数					1	1	2
	延 人 員 数					2	2	4
	車両延台数					1	1	2
	活動延時間					3:30	3:10	6:40
誤 報 等	出 動 件 数	28	17	20	4	35		104
	延 人 員 数	233	61	288	18	115		715
	車両延台数	76	17	85	4	35		217
	活動延時間	22:26	10:31	14:43	2:29	23:22		73:31
緊 急 援 助	出 動 件 数							
	延 人 員 数							
	車両延台数							
	活動延時間							
そ の 他	出 動 件 数	71	18	106	10	15	3	223
	延 人 員 数	209	68	308	40	16	9	650
	車両延台数	72	23	93	15	18	4	225
	活動延時間	67:07	13:43	86:24	10:11	14:29	2:48	194:42

消 火 活 動 状 況

(令和6年)

区 分		建 物	林 野	車 両	船 舶	その他	合 計
火 災 件 数		16	4	7		24	51
焼失面積 (㎡)	焼 失 面 積	4,353.00	2,300.00	/	/	4,802.97	/
	火災1件の 平均焼失面積	272.06	575.00	/	/	200.12	/
出動台数 (台)	総出動台数	73	23	27		70	193
	火災1件の 平均出動台数	4.56	5.75	3.86		2.92	4
出動人員 (人)	総出動人員	229	78	82		231	620
	火災1件の 平均出動人員	14.31	19.50	11.71		9.63	12.15
放水車両 (台)	総放水台数	22	7	11		21	61
	火災1件の 平均放水台数	1.38	1.75	1.57		0.88	1.19
使用ホース (本)	総使用ホース	139	22	36		71	268
	火災1件の 平均使用本数	8.69	5.50	5.14		2.96	5.25
放水時間 (時分)	総放水時間	12:09	4:27	3:14		5:52	25:42
	火災1件の 平均放水時間	0:45	1:06	0:27		0:14	0:30
放水量 (t)	総放水量	470.82	23.00	12.90		57.26	563.98
	火災1件の 平均放水量	29.43	5.75	1.84		2.39	11.05

救 助 活 動 状 況

(令和6年)

区 分		出 動 件 数	活 動 件 数	救 助 人 員	出 動 人 員 (人)				出 動 車 両 (台)			
					消 防 隊 員	救 助 隊 員	救 急 隊 員	計	ポ ン プ 車 等	救 助 工 作 車	救 急 車	計
事 故 種 別	火 災	3	1	1	39	11	6	56	13	4	2	19
	交通事故	37	10	10	88	115	151	354	20	41	49	110
	水難事故	6	4	4	7	16	21	44	2	6	6	14
	自然災害											
	機械事故	1				3	4	7		1	1	2
	その他の事故	11	2	2	14	23	34	71	5	8	11	24
合 計		58	17	17	148	168	216	532	40	60	69	169
相 馬 消 防 署	本 署	32	9	9	92	92	126	310	27	32	38	97
	新地分署	1				3	3	6		1	1	2
南 相 馬 消 防 署	本 署	23	6	6	56	66	81	203	13	25	28	66
	小高分署											
	鹿島分署	1	1	1		3	3	6		1	1	2
	飯館分署	1	1	1		4	3	7		1	1	2

訓練実施状況

(令和6年)

区 分		実施回数 (回)	実施時間 (時間)	実施人員 (人)	月 平 均		
					実施回数 (回)	実施時間 (時間)	実施人員 (人)
訓練種別	規 律 訓 練	13	6:10	248	1.1	0:30	20.7
	車 両 操 縦 訓 練	309	264:42	1,136	25.8	22:03	94.7
	消 防 用 器 具 操 法	81	79:50	419	6.8	6:39	34.9
	消 防 ポ ン プ 操 法	44	48:30	270	3.7	4:02	22.5
	図 上 訓 練	282	172:35	1,191	23.5	14:22	99.3
	各 種 警 防 訓 練	527	568:35	3,034	43.9	47:22	252.8
	体 力 練 成 訓 練	587	292:48	3,348	48.9	24:24	279.0
	救 急 処 置 訓 練	483	301:10	2,181	40.3	25:05	181.8
合 計		2,326	1734:20	11,827	194.0	144:27	985.7
相馬消防署	本 署	680	557:15	4,325	56.7	46:26	360.4
	新 地 分 署	208	149:42	739	17.3	12:28	61.6
南相馬消防署	本 署	537	508:56	3,481	44.8	42:24	290.1
	鹿 島 分 署	431	216:12	1,476	35.9	18:01	123.0
	小 高 分 署	269	134:15	1,022	22.4	11:11	85.2
	飯 館 分 署	201	168:00	784	16.8	14:00	65.3

消防車両の配置状況

(令和7年4月1日現在)

区分 所属	No.	車 両 名	登 録 番 号	メーカ	年式	ポンプ	登 録 年 月 日	経 過 年 数	備 考			
本 部	1	指 令 車	800 す 3766	トヨタ	H19		H19.8.31	16				
	2	指 揮 車	800 す 9926	トヨタ	H27		H27.8.21	8	緊急消防援助隊登録			
	3	災 害 救 援 車	800 せ 175	トヨタ	H28		H28.1.15	8	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業			
	4	水槽付消防ポンプ自動車	800 は 614	日 野	H20	日本ドライ	H20.1.30	16	旧南相タンク1 (予備車)			
	5	高規格救急自動車	800 す 3121	トヨタ	H18		H18.11.17	17	旧小高救急1 (予備車)			
	6	連 絡 車	580 め 1816	ダイハツ	H26		H26.7.3	9				
	7	多 目 的 車	800 す 4792	ニッサン	H24		H24.5.14	12	旧相馬救急1			
相 馬 消 防 署	本 署	8	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9924	トヨタ	H27		H27.8.21	8			
		9	査 察 兼 広 報 車	800 す 9446	トヨタ	H26		H26.10.10	9			
		10	消 防 ポ ン プ 自 動 車	800 す 8005	日 野	H25	ネイチャー	H25.2.27	11	緊急消防援助隊登録		
		11	水槽付消防ポンプ自動車	800 は 467	日 野	H17	モリタ	H17.12.12	18	緊急消防援助隊登録		
		12	ブーム付多目的消防ポンプ自動車	800 は 1298	日 野	H29	モリタ	H29.2.13	7	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業		
		13	救 助 工 作 車	800 は 788	日 野	H23		H23.6.6	12			
		14	津波・大規模風水害対策車	800 は 1572	いすゞ	R2		R2.9.29	3	緊急消防援助隊登録		
		15	高規格救急自動車	800 せ 4431	トヨタ	R7		R7.1.23	0			
	新 地 分 署	16	高規格救急自動車	800 せ 3193	トヨタ	R3		R3.11.22	2			
		17	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9954	トヨタ	H27		H27.9.4	8			
		18	小型水槽付消防ポンプ自動車	800 す 9590	日 野	H26	モリタ	H26.12.16	9	緊急消防援助隊登録		
		19	高規格救急自動車	800 す 6158	トヨタ	H23		H23.1.14	13	緊急消防援助隊登録		
		南 相 馬 消 防 署	本 署	20	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9925	トヨタ	H27		H27.8.21	8	
				21	査 察 兼 広 報 車	800 す 9445	トヨタ	H26		H26.10.10	9	
				22	消 防 ポ ン プ 自 動 車	800 す 5502	日 野	H22	日本ドライ	H22.1.22	14	緊急消防援助隊登録
				23	水槽付消防ポンプ自動車	800 は 1599	日 野	R3	日本機工	R3.2.26	3	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業
				24	ブーム付多目的消防ポンプ自動車	800 は 1297	日 野	H29	モリタ	H29.2.13	7	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業
				25	救 助 工 作 車	800 は 453	日 野	H17		H17.10.17	18	緊急消防援助隊登録
				26	特殊災害対応消防支援車	800 は 1553	日 野	R2		R2.5.20	3	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業
27	高規格救急自動車			800 せ 1344	トヨタ	H30		H30.1.26	6	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業		
28	高規格救急自動車		800 す 3710	トヨタ	R5		R5.3.1	1	緊急消防援助隊登録			
小 高 分 署	小 高 分 署		29	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9952	トヨタ	H26		H27.9.4	8		
		30	小型水槽付消防ポンプ自動車	800 せ 184	日 野	H28	モリタ	H28.1.20	8	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業		
	鹿 島 分 署	31	高規格救急自動車	800 せ 1364	ニッサン	H30		H30.2.14	6	消防防災設備災害復旧費補助金事業		
		32	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9953	トヨタ	H27		H27.9.4	8			
		33	小型水槽付消防ポンプ自動車	800 せ 652	日 野	H28	モリタ	H28.11.7	7	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業		
		34	化学消防ポンプ自動車(Ⅲ型)	800 は 1294	日 野	H29	モリタ	H29.2.8	7	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業		
		35	高規格救急自動車	800 せ 4095	トヨタ	R6		R6.2.6	0			
		飯 館 分 署	36	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9444	トヨタ	H26		H26.10.10	9		
			37	小型水槽付消防ポンプ自動車	800 せ 185	日 野	H28	モリタ	H28.1.20	8	原子力災害避難指示区域消防活動費交付金事業	
			38	高規格救急自動車	800 せ 1365	ニッサン	H30		H30.2.14	6	消防防災設備災害復旧費補助金事業	

消 防 資 機 材 の 保 有 状 況

(令和7年4月1日現在)

種 別	所 属	本 部	相馬消防署		南相馬消防署				計
			本 署	新地分署	本 署	小高分署	鹿島分署	飯館分署	
消 火 用 器 具	ホースカー		1	1	2	1	1	1	7
	高発泡ノズル				1		2		3
	低発泡ノズル				3			1	4
	ロータリーノズル				1				1
	無反動管そう		3	1	4	1	1	1	11
	ガンタイプノズル		6	2	6	2	5	2	23
	背負い式消火水のう		25	10	25	10	10	10	90
	ホース (65 mm)		125	35	105	50	70	35	420
	ホース (50 mm)		145	65	145	85	105	65	610
	水幕ホース		3	2	3	3	2	2	15
	ディスクストレーナー		2	1	1	1	1	1	7
	ウォーターチャージャー		1	1	1	2	1	1	7
	簡易水槽 (1,000ℓ)		1		1	1			3
	かぎ付梯子		2		3		1		6
	三連梯子		3	1	4	1	2	1	12
救 助 用 器 具	万能斧		2	1	2	3	1	1	10
	空気式救助マット				1				1
	マット型空気ジャッキ		1		1				2
	救命ゴムボート		3		1		1		5
	救命胴衣		30	9	11	2	9	3	64
	救命索発射銃		1		1				2
	救助用縛帯	5	5		5				15
	バスケットストレッチャー		2		2				4
	緩降器		1		1				2
	ロープ登降機		2		2				4
	油圧スプレッダー		1		1				2
	油圧切断機		1		1				2
	油圧ジャッキ		1		1				2
	簡易式ウィンチ		1		1				2
	エンジンカッター		1		1				2
エアーソー		1		1				2	
チェーンソー		1	1	1	1	1	1	6	
ハンマードリル		1		1				2	

消 防 資 機 材 の 保 有 状 況

(令和7年4月1日現在)

種 別	所 属	本 部	相馬消防署		南 相 馬 消 防 署				計
			本 署	新 地 分 署	本 署	小 高 分 署	鹿 島 分 署	飯 館 分 署	
救 助 用 器 具	削 岩 機		1		1				2
	エアーカッター		1		1				2
	ボルトクリッパー		2		3	2	1		8
	ガス溶断機				1				1
	空気呼吸器	10	22	8	22	8	13	8	91
	安全マット	2	1	1	1	1	1	1	8
救 急 用 器 具 等	高度救命処置用資機材一式		2	1	2	1	1	1	8
	AED(自動体外式除細動器)	1	3	2	2	2	2	2	14
	患者監視装置	1	2	1	2	1	1	1	9
	自動式心肺蘇生装置		2	1	2	1	1	1	8
	ショックパンツ		1	1	2		1	1	6
	室内紫外線殺菌装置			1		1	1		3
	蘇生訓練用人形(成人)	1	23	12	28	7	13	10	94
	蘇生訓練用人形(小児)	1	14	5	30	5	5	5	65
	AEDトレーナー	1	16	8	19	6	12	7	69
高度訓練用資機材一式		3		2				5	
そ の 他 の 器 具 等	有毒性ガス測定器		5	1	4		1		11
	酸素濃度測定器		3		2				5
	放射線測定器		2	1	2	1	2	2	10
	可燃性ガス測定器		3		2		1		6
	火災原因調査用ガス検知器		2		1	1	1	1	6
	高低圧用検電器		3	1	2	1	1	1	9
	原因調査用資機材ケース		2	1	1	1	1	1	7
	ポケット型線量計	414	34	13	42	13	13	13	542
	放射線測定器	65	4	2	3	1	2	2	79
	耐熱防護服						4		4
	指揮隊ベスト		9	3	16	4	3	4	39
	クリーニングベスト	6	18	5	14	5	5	5	58
	化学防護服(陽圧式)		6		6				12
	発動発電機	3	3	2	5	2	2	3	20
送排風機		1		1				2	
投光器	1	3	1	6	2	1	1	15	
可搬式温風機	3							3	

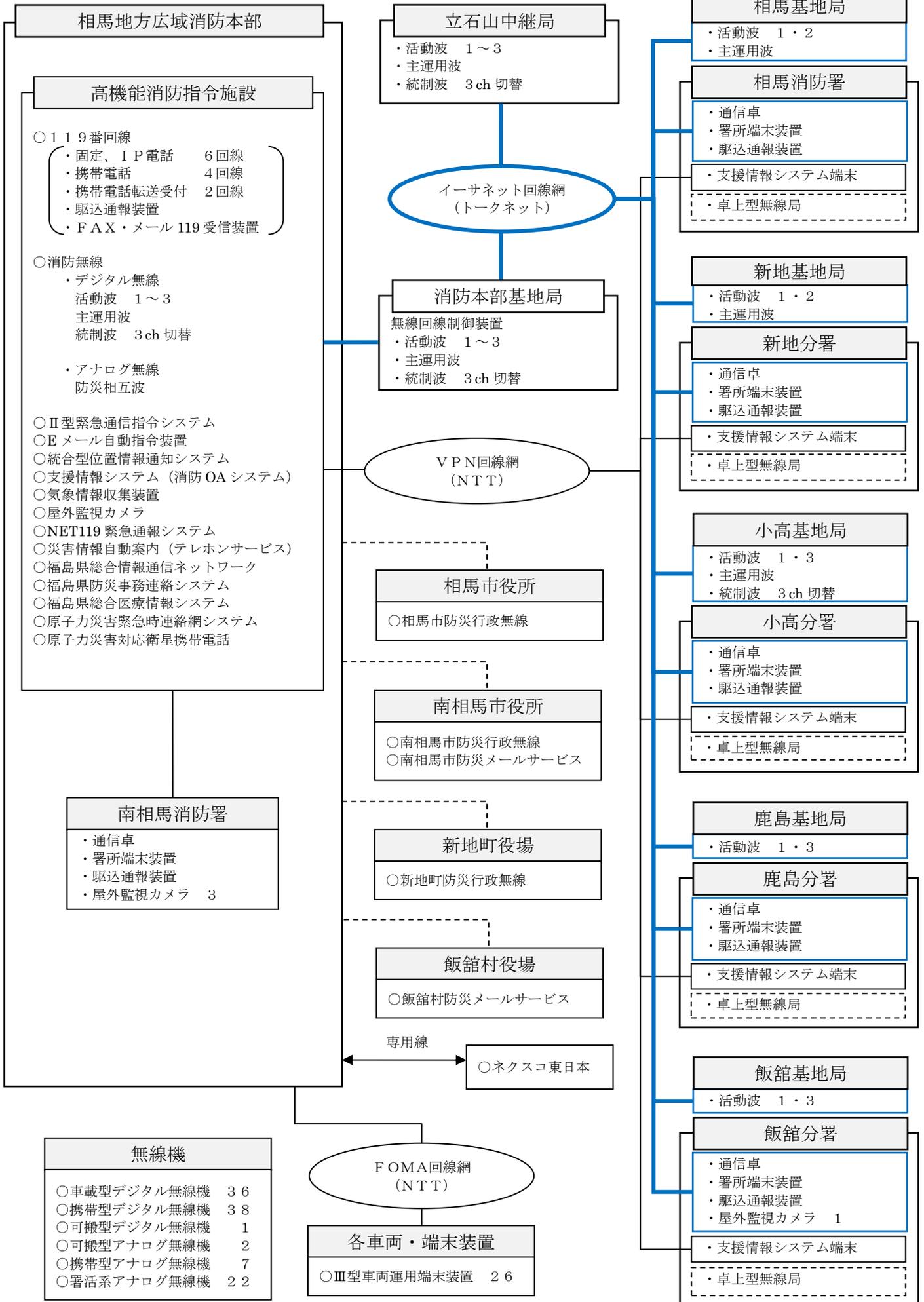
消 防 資 機 材 の 保 有 状 況

(令和7年4月1日現在)

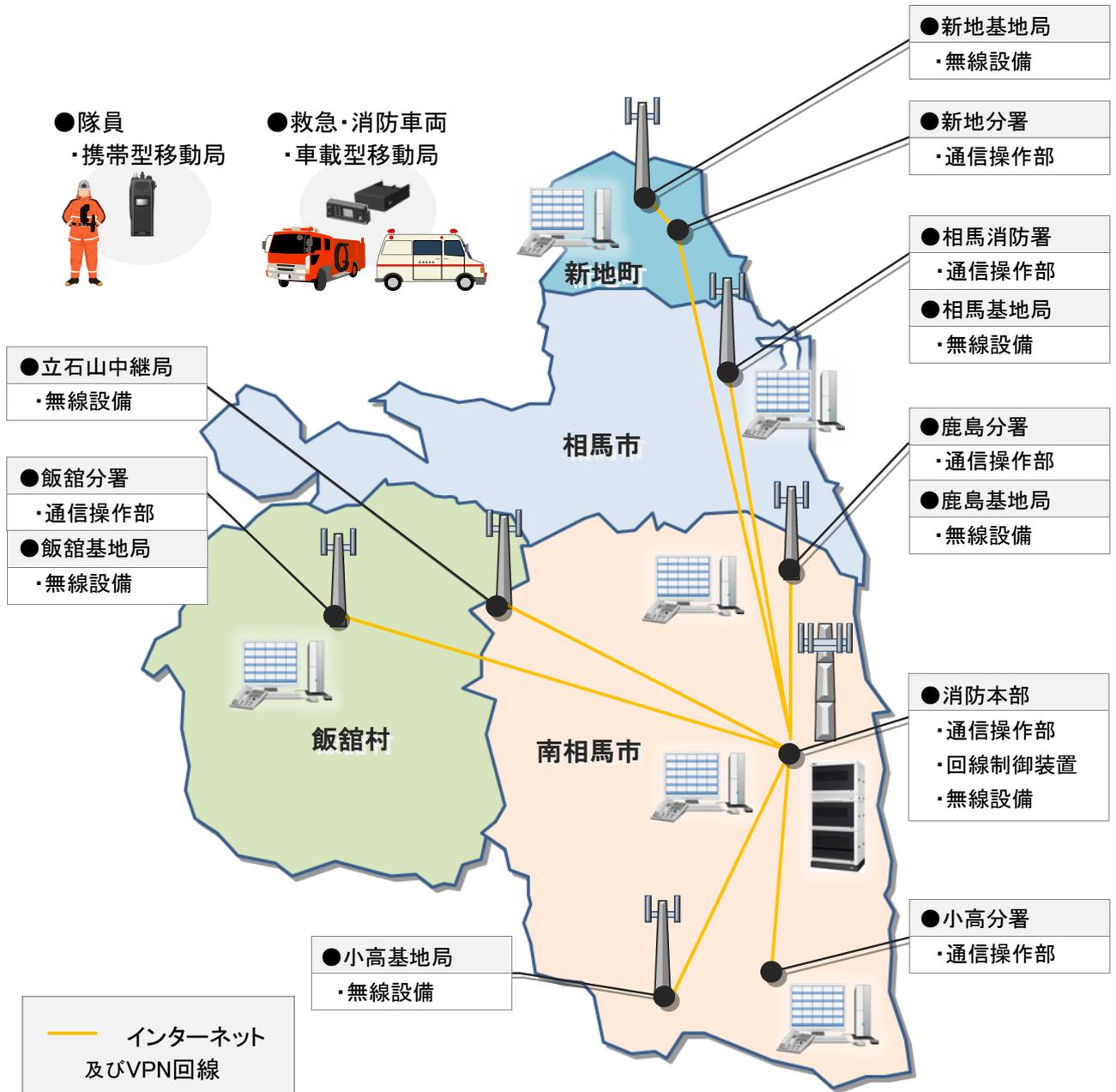
種 別	所 属	本 部	相馬消防署		南相馬消防署				計
			本 署	新地分署	本 署	小高分署	鹿島分署	飯館分署	
その他 の 器 具 等	可搬式冷風機	3							3
	エアーテント	3			2				5
	除染テント	1							1
	ホース巻取り機		2	1	2	2	2	2	11
	媒介金具		18	12	18	18	11	9	86
	マルチボールバルブ		3	1	7	4	4	1	20
	M C スイベル		4	1		2	3		10
	ヘリ用吹き流し		2	1	3	1	1	2	10
	現場指揮本部旗	1	1	1	2	1	1	1	8
	A火災用泡消火薬剤	1	10	7	12	8	10	9	57
	A火災訓練用泡消火薬剤	5	5	4	4	5	4	3	30
	B火災用泡消火薬剤		70	13	65	15	15	16	194
	B火災訓練用泡消火薬剤						7		7
	資器材搬送バック	13	9		12	3			37
	署活系アナログ無線機		12	5	11		5		33
トランシーバー			3		3	3	3	12	
水難 救助 器具	ウェットスーツ		9		8				17
	レスキューチューブ		2		2				4
	ポーターボート		1		1				2
	ライフジャケット	11	30	6	18	11	10	9	95
	セフティーボード		3		2				5

通信系統図

令和7年4月1日現在



■ 消防救急デジタル無線 整備概要



通 信 施 設 状 況

(令和7年4月1日現在)

種 別 所 属	本 部	相馬消防署		南相馬消防署				計
		本 署	新地 分署	本 署	小高 分署	鹿島 分署	飯館 分署	
固定、IP119専用電話	6							6
携帯119専用電話	4							4
メー ル 119	1							1
F A X 119	1							1
直 通 電 話	2	1	1	1	1	1	1	8
一 般 加 入 電 話	4	2	2	2	2	2	2	16
庁 内 電 話	20	14	4	16	9	11	8	82
電 話 フ ァ ッ ク ス	3	1	1	1	1	1	1	9
携 帯 電 話	3	2	1	2	1	1	1	11
指 令 用 放 送 設 備	1	1	1	1	1	1	1	7
非 常 用 サ イ レ ン		1	1		1	1		4
駆 け 込 み		1	1	1	1	1	1	6

無 線 機 配 備 状 況 (アナログ無線)

(令和7年4月1日現在)

所属	無線種別	呼 出 名 称	製造社名	出力W	搭載周波数	備考
消 防 本 部	可搬型移動局	そうまぼうさい1	日立電子	10	防災相互波	
		そうまぼうさい2	日立電子	10	防災相互波	
	携帯型移動局	そうまぼうさい11	日立電子	5	防災相互波	
		そうまぼうさい12	日立電子	5	防災相互波	
		そうまぼうさい13	日立電子	5	防災相互波	
		そうまぼうさい14	日立電子	5	防災相互波	
		そうまぼうさい15	日立電子	5	防災相互波	
		そうまぼうさい16	日立電子	5	防災相互波	
相馬		そうまさいたい11	ケンウッド	5	防災相互波	

無線機配備状況(デジタル無線)

凡例 (搭載周波数) ①活動波1 ②活動波2 ③活動波3 ④主運用波4 ⑤主運用波1～7 ⑥統制波1～3
(令和7年4月1日現在)

所属	無線種別	呼出名称	製造社名	出力W	搭載周波数	備考	
消防本部	基地局	そうましょうぼうたていしやまちゅうけい	日立	20	①②③④ ⑥		
	基地局	そうましょうぼうほんぶ	日立	20	①②③④ ⑥		
	卓上型	そうましょうぼうほんぶ1	日立	5	①②③④ ⑥		
	車載型	ほんぶしれい1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		ほんぶしれい2	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		さいがいきゅうえん1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		おだかタンク1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		ほんぶきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
	携帯型	ほんぶ1 1	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		ほんぶ1 2	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		ほんぶ1 3	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		ほんぶ1 4	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		ほんぶ1 5	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		ほんぶ1 6	日立	2	①②③ ⑤⑥		
可搬型	ほんぶ2 1	日立	5	①②③ ⑤⑥			
相馬消防署	本署	基地局	しょうぼうそうま	日立	20	①② ④	
		卓上型	しょうぼうそうま1	日立	5	①②③④ ⑥	
	車載型	そうましき1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		そうましき2	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		そうまポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		そうまタンク1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		そうまきゅうじょ1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		そうまさいたい1	富士通	5	①②③ ⑤⑥	津波・大規模風水害対策車	
		そうまとくしゅ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	ブーム付多目的消防ポンプ自動車	
		そうまきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
	そうまきゅうきゅう2	日立	5	①②③ ⑤⑥			
	携帯型	そうま1 1	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 2	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 3	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 4	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 5	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 6	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 7	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 8	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		そうま1 9	日立	2	①②③ ⑤⑥		
	新地分署	基地局	しょうぼうしんち	日立	20	①② ④	
		卓上型	しょうぼうしんち1	日立	5	①②③④ ⑥	
		車載型	しんちしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
しんちポンプ1			日立	5	①②③ ⑤⑥		
携帯型		しんちきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		しんち1 1	日立	2	①②③ ⑤⑥		
	しんち1 2	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		しんち1 3	日立	2	①②③ ⑤⑥		

無線機配備状況(デジタル無線)

凡例 (搭載周波数) ①活動波1 ②活動波2 ③活動波3 ④主運用波4 ⑤主運用波1～7 ⑥統制波1～3
(令和7年4月1日現在)

所属	無線種別	呼出名称	製造社名	出力W	搭載周波数	備考	
南相馬消防署	本署	車載型	なんそうしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			なんそうしき2	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			なんそうポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			なんそうタンク1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			なんそうきゅうじょ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			なんそうとくしゅ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	ブーム付多目的消防ポンプ自動車
			なんそうとくさい1	日立	5	①②③ ⑤⑥	特殊災害対応消防支援車
			なんそうきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			なんそうきゅうきゅう2	日立	5	①②③ ⑤⑥	
	本署	携帯型	なんそう11	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう12	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう13	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう14	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう15	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう16	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう17	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう18	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			なんそう19	日立	2	①②③ ⑤⑥	
	小高分署	基地局	しょうぼうおだか	日立	20	① ③④ ⑥	
		卓上型	しょうぼうおだか1	日立	5	①②③④ ⑥	
		車載型	おだかしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			おだかポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
			おだかきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
		携帯型	おだか11	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			おだか12	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			おだか13	日立	2	①②③ ⑤⑥	
			おだか14	日立	2	①②③ ⑤⑥	
鹿島分署		基地局	しょうぼうかしま	日立	20	① ③	
		卓上型	しょうぼうかしま1	日立	5	①②③④ ⑥	
		車載型	かしましき1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
	かしまポンプ1		日立	5	①②③ ⑤⑥		
	なんそうかがく1		日立	5	①②③ ⑤⑥		
	かしまきゅうきゅう1		日立	5	①②③ ⑤⑥		
	携帯型	かしま11	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		かしま12	日立	2	①②③ ⑤⑥		
かしま13		日立	2	①②③ ⑤⑥			
かしま14		日立	2	①②③ ⑤⑥			
飯館分署	基地局	しょうぼういいたて	日立	20	① ③		
	卓上型	しょうぼういいたて1	日立	5	①②③④ ⑥		
	車載型	いいたてしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		いいたてポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
		いいたてきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
	携帯型	いいたて11	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		いいたて12	日立	2	①②③ ⑤⑥		
いいたて13		日立	2	①②③ ⑤⑥			

消 防 水 利 の 現 有 状 況

(令和7年4月1日現在)

種 別			相馬消防署		南 相 馬 消 防 署			計	
			本 署	新地 分署	本 署	小高 分署	鹿島 分署		飯館 分署
消 火 栓	公 設	地 下 (単)	283	2	742	48	157	34	1,266
		地 下 (双)	1			1	8		10
		地 上 (単)	239	213	3	179	16	176	826
		地 上 (双)	1	50		2	1	1	55
	私 設	地 下 (単)				1			1
		地 上 (単)	17						17
防 火 水 槽	公 設	100 m ³ 以 上	2	1		2	2		7
		40~100m ³ 未満	74	29	164	70	101	62	500
		20~40m ³ 未満	15	3	4	10	18		50
	私 設	100 m ³ 以 上	1		1				2
		40~100m ³ 未満	11	8	23	14	14	1	71
		20~40m ³ 未満	7		1	1			9
そ の 他	井 戸	40 m ³ 以 上			3				3
		20~40m ³ 未満							
	河 川 ・ 溝 等								
	海 ・ 湖								
	プ ー ル	11	3	15	3	4	1		37
	濠 ・ 池 等	7							7
	下 水 道								
そ の 他	68	4	30	15				117	
合 計			737	313	986	346	321	275	2,978



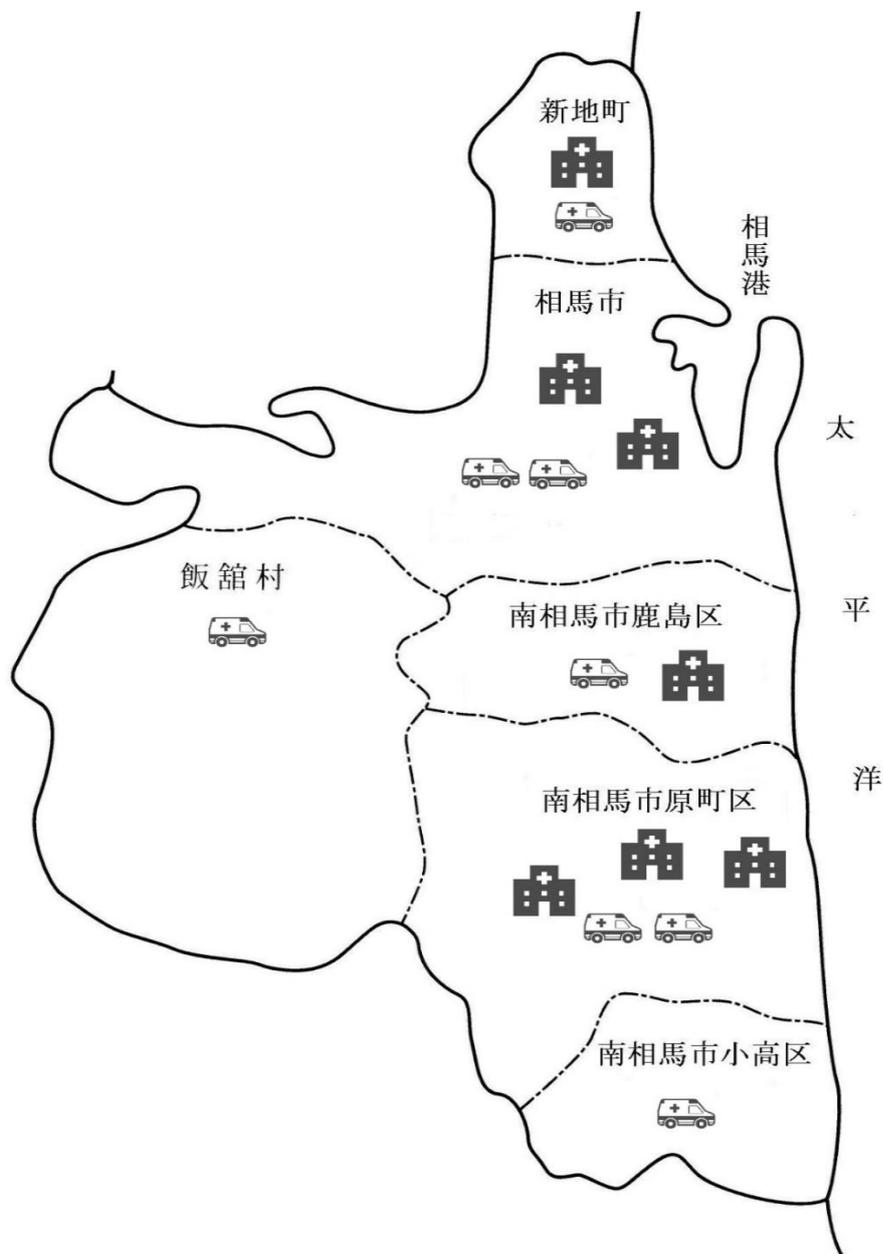
救 急 統 計



相馬地方救急現勢分布図

凡 例

	救急指定病院
	高規格救急車



救急出場件数及び搬送人員 (令和6年)

件 数		出場件数	搬送人員
所属別			
相 馬 消防署	本 署	1,427	1,255
	新地分署	367	316
南相馬 消防署	本 署	2,069	1,701
	小高分署	338	248
	鹿島分署	554	442
	飯舘分署	103	92
合 計		4,858	4,054

救急隊別事故種別出場件数

(令和6年)

種別 救急隊別	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
相馬隊	3		3	80	18	15	164	4	8	981	151	1,427
南相馬隊	2			93	17	9	214	1	21	1,510	202	2,069
小高隊				24	4	1	55		5	239	10	338
鹿島隊			3	28	8	1	64	2	2	393	53	554
新地隊	1		1	22	4	2	45		3	241	48	367
飯舘隊				2	3	2	18		3	73	2	103
計	6		7	249	54	30	560	7	42	3,437	466	4,858

傷病程度別搬送人員数

(令和6年)

種別 程度別	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
死亡	1		1	1			5		7	93		108
重症			1	17	6	1	83		5	332	123	568
中等症			1	65	20	4	187	1	13	1,491	309	2,091
軽症	1			120	25	24	192	1	5	889	30	1,287
その他												
計	2		3	203	51	29	467	2	30	2,805	462	4,054

※その他のその他は防災ヘリ収容

年齢区分別搬送人員数

(令和6年)

種別 区分別	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
新生児											7	7
乳幼児				2			10			67	12	91
少年				18		18	16		1	46	8	107
成人	2		1	107	37	8	74	2	20	572	135	958
高齢者			2	76	14	3	367		9	2,120	300	2,891
計	2		3	203	51	29	467	2	30	2,805	462	4,054

曜 日 別 出 場 件 数

(令和6年)

曜 日	日	月	火	水	木	金	土	計
件 数	650	771	732	683	704	685	633	4,858

時 間 別 出 場 件 数

(令和6年)

事故種別 時間帯別		火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	そ	計
		災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	の	
時 間 別 内 訳	0 ~ 2				3	2		17	2	2	180	5	211
	2 ~ 4			1		1		17		2	114	4	139
	4 ~ 6				10	2		14		1	148	4	179
	6 ~ 8	1		2	17			46		2	309	9	386
	8 ~ 10	3		1	35	9	1	74	1	8	435	56	623
	10 ~ 12	1		1	44	13	9	82		6	431	114	701
	12 ~ 14				33	9	6	61	1	4	373	91	578
	14 ~ 16	1		2	31	10	9	54		3	347	72	529
	16 ~ 18				27	5	5	68	1	4	311	57	478
	18 ~ 20				27	2		58		6	346	27	466
	20 ~ 22				13			43		1	251	15	323
	22 ~ 24				9	1		26	2	3	192	12	245
計		6		7	249	54	30	560	7	42	3,437	466	4,858

覚 知 別 出 場 件 数

(令和6年)

種 別	119番	一般電話	駆け付け	その他	計
件 数	4,676	141	20	21	4,858

(119番は携帯119番IP電話も含む)

救急隊員の行った応急処置状況

(令和6年)

区分	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
搬送人員		2,805	203	467	579	4,054
応急処置対象人員		2,803	202	467	577	4,049

手当別	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
止血		11	11	49	14	85
固定		17	110	100	24	251
人工呼吸		66	1	3	9	79
胸骨圧迫		6	1	1	1	9
心肺蘇生		100		3	9	112
	うち自動	19		1	1	21
酸素吸入		708	19	33	132	892
気道確保		142	2	7	11	162
	うちエアウェイ					
	うち食道閉鎖式エアウェイ	7		3	1	11
	うち気管挿管			1		1
静脈路確保輸液		51		4	3	58
	うち薬剤投与	29		2		31
除細動		9			1	10
異物除去		5				5
保温		1,857	103	289	373	2,622
被覆		16	36	85	24	161
在宅療法		56		3	5	64
血圧測定		2,671	199	452	550	3,872
聴診器聴取		847	60	76	78	1,061
血中酸素飽和度測定		2,704	201	457	555	3,917
心電図測定		2,599	132	337	410	3,478

ドクターへリ要請概要

1 月別事故種別要請件数

(令和6年)

月別	事故種別												計
	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	
1										1			1
2					1								1
3					1		1			2			4
4				1					1	1	2		5
5				3	1					3			7
6				1			1			1	1		4
7				1						4			5
8				1									1
9	1				1								2
10				1						2			3
11				1			1			2			4
12				1	2						1		4
計	1			10	6		3		1	16	4		41

2 所属別事故種別要請件数

(令和6年)

所属別	事故種別												計
	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	
相馬	1			5	1					4	1		12
新地					2					2	1		5
南相馬				3	1		2			7	2		15
小高				2			1						3
鹿島					1				1	2			4
飯舘					1					1			2
計	1			10	6		3		1	16	4		41

高速道路関連事故対応状況

○令和6年救急出場

	発生日時	発生場所	種別	出動所属	傷病者	出動隊数	出動人員	事故概要	備考
1	令和6年3月9日	常磐道 下り車線 269.6kp 付近	交通	相馬 南相馬 新地	1名	6隊	18名	車両の 単独事故	73歳女性 軽症
2	令和6年3月9日	常磐道 上り車線 251.6kp Bランプ	交通	相馬 南相馬 小高島 新地	1名	6隊	19名	車両の 単独事故	56歳男性 軽症
3	令和6年3月29日	常磐道 鹿島SA内	急病	相馬	1名	2隊	6名	68歳男性 鹿島SA内 トイレで卒倒	中等症
4	令和6年4月25日	常磐道 鹿島SA内	急病	相馬	1名	2隊	6名	38歳男性 鹿島SA内 トイレで卒倒	中等症
5	令和6年6月2日	常磐道 下り車線 251.1kp Dランプ	交通	南相馬	1名	3隊	10名	車両の 単独事故	38歳男性 軽症
6	令和6年6月8日	常磐道 下り車線 272.0kp 付近	交通	相馬 南相馬 鹿島 新地	—	6隊	19名	車両の 単独事故	38歳女性 45歳男性 不搬送
7	令和6年6月22日	常磐道 上り車線 236.1kp 付近	交通	南相馬	—	3隊	10名	2tトラック の単独事故	28歳男性 41歳男性 不搬送
8	令和6年8月7日	常磐道 鹿島SA内	一般 負傷	南相馬 鹿島	1名	2隊	6名	7歳女兒 鹿島SA内 店舗で転倒	軽症

	発生日時	発生場所	種別	出動所属	傷病者	出動隊数	出動人員	事故概要	備考
9	令和6年9月16日	常磐道 上り車線 265.9kp 付近	交通	相馬 南相馬 新地	—	6隊	23名	車両の 単独事故	傷病者なし 不搬送
10	令和6年9月24日	東北中央道 下り車線 13.4kp付近	交通	相馬 南相馬 鹿島 新地	—	5隊	15名	車両同士 の追突事故	46歳男性 不搬送
11	令和6年11月3日	常磐道 南相馬IC	急病	南相馬	1名	1隊	3名	5歳女兒 痙攣発作	中等症
12	令和6年11月27日	常磐道 下り車線 279.2kp 付近	交通	相馬 新本 地部	1名	4隊	12名	大型トラック と普通乗用車 の衝突事故	25歳男性 軽症
13	令和6年11月30日	常磐道 鹿島SA内	急病	相馬	1名	2隊	6名	13歳男児 痙攣発作	中等症
14	令和6年12月12日	東北中央道 上り車線 10.0kp付近 檜這トンネル	急病	相馬 飯館	—	4隊	13名	停車中の 車両から 足が見える	誤報 不搬送
15	令和6年12月30日	常磐道 下り車線 257.8kp Dランプ	交通	南相馬	1名	3隊	9名	車両の 単独事故	11歳女兒 軽症

過去10年間の救急業務の推移

区 分	出場件数	搬送人員	一日平均 出場件数	内 訳 (件数)				
				急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
平成27年	4,513	4,038	12.4	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				2,864	446	547	489	167
平成28年	4,600	4,097	12.6	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				3,030	399	582	436	153
平成29年	4,558	4,144	12.5	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				2,983	357	571	485	162
平成30年	4,716	4,190	12.9	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				3,096	360	579	487	194
令和元年	4,679	4,087	12.8	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				3,157	304	562	532	124
令和2年	4,197	3,657	11.5	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				2,819	240	587	429	122
令和3年	4,223	3,636	11.6	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				2,845	235	554	467	122
令和4年	4,786	3,972	13.1	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				3,313	238	589	486	160
令和5年	5,142	4,194	14.1	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				3,583	250	632	497	180
令和6年	4,858	4,054	13.3	急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他
				3,437	249	560	459	153

救命講習会の実施状況

年 別		相馬消防署		南 相 馬 消 防 署				計
		本 署	新地分署	本 署	小高分署	鹿島分署	飯館分署	
平成7年 ～ 平成23年	回 数	587	112	764	319	202	199	2,183
	受講者数	17,258	4,203	16,321	8,195	5,349	4,041	55,367
平成24年	回 数	37	8	29		8	1	83
	受講者数	1,131	323	508		215	6	2,183
平成25年	回 数	25	9	38	2	11		85
	受講者数	801	264	642	51	268		2,026
平成26年	回 数	38	8	39	11	11	4	111
	受講者数	1,041	338	757	373	246	45	2,800
平成27年	回 数	34	12	30	10	11	1	98
	受講者数	1,086	384	685	210	315	14	2,694
平成28年	回 数	32	12	35	7	14	10	110
	受講者数	1,049	304	856	233	295	205	2,942
平成29年	回 数	32	3	34	6	8	6	89
	受講者数	973	139	866	92	247	59	2,376
平成30年	回 数	32	7	43	7	7	4	100
	受講者数	883	184	907	129	162	37	2,302
令和元年	回 数	34	12	41	8	15	6	116
	受講者数	810	183	1,151	85	322	62	2,613
令和2年	回 数	18	2	28	1	2	1	52
	受講者数	223	15	248	7	22	4	519
令和3年	回 数	23	5	38	9	1	4	80
	受講者数	166	93	321	72	8	29	689
令和4年	回 数	37	6	46	11	1	7	108
	受講者数	238	45	413	94	9	61	860
令和5年	回 数	39	10	66	17	12	5	149
	受講者数	227	87	651	131	211	55	1,362
令和6年	回 数	27	11	45	13	10	3	109
	受講者数	185	132	715	114	150	27	1,323
計	回 数	995	217	1,276	421	313	251	3,473
	受講者数	26,071	6,694	25,041	9,786	7,819	4,645	80,056

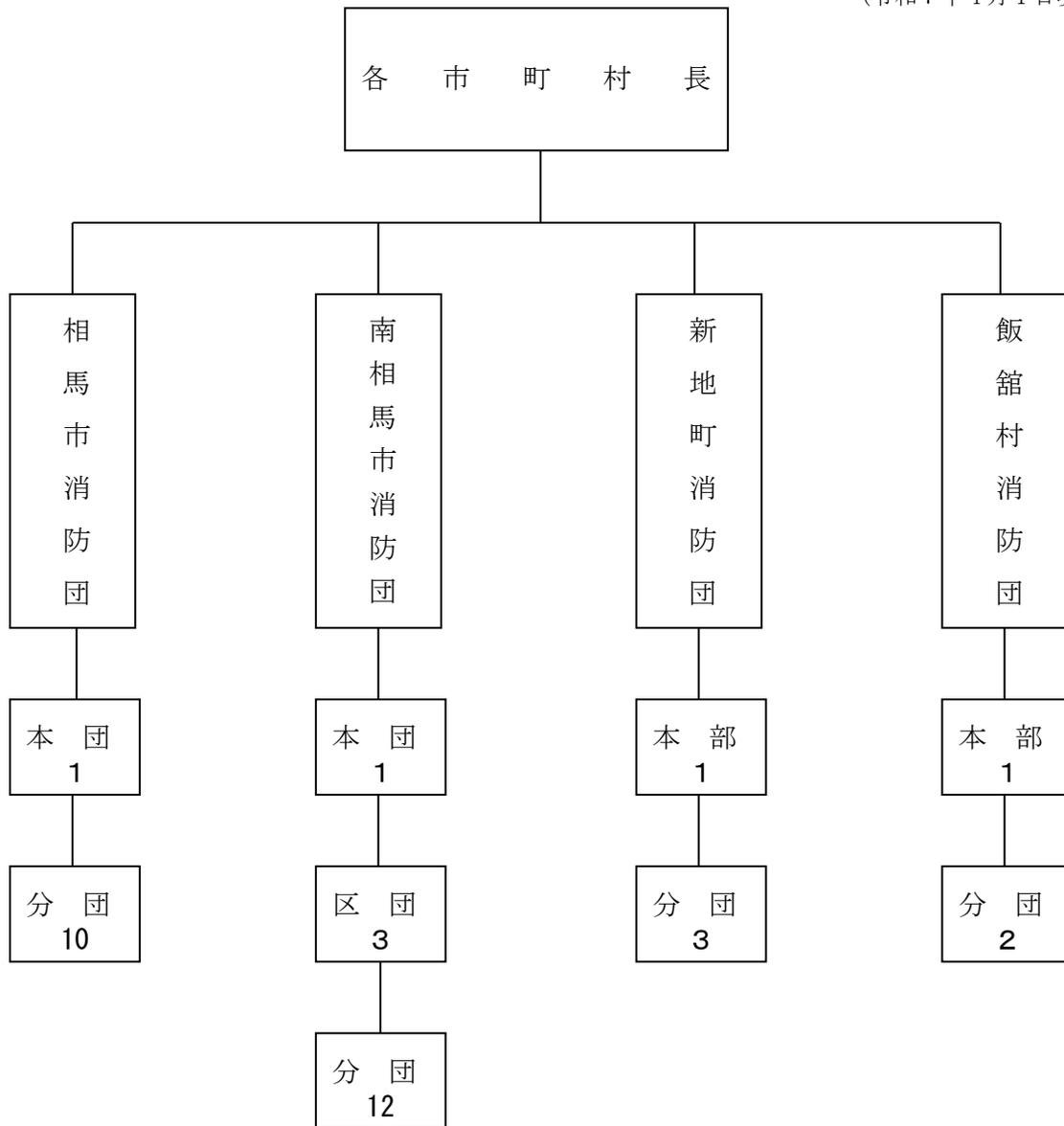


消防団・関係団体等



相馬地方広域市町村消防団の組織

(令和7年4月1日現在)



市町村消防団名	団 長 名	副 団 長 名	定 員	実 員
相馬市消防団	鎌 田 重 昭	米 本 薫 嶋 田 正 照	5 4 7	4 6 2 (2)
南相馬市消防団	片 岡 芳 廣	佐 藤 弘 藤 田 代 一	1, 3 5 6	8 3 4 (25)
新地町消防団	岡 崎 仁 一	鈴 木 正 志	3 0 5	2 5 7 (7)
飯舘村消防団	川 村 仁	菅 野 哲 男	2 1 6	1 2 3 (0)
合 計			2, 4 2 4	1, 6 7 6 (34)

※ () 内は、女性消防団員

階 級 別 実 員 数

(令和7年4月1日現在)

階 級 消防団名		団 長	副 団 長	副 区 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計
相馬市消防団		1	2		12	12	12	46	377	462
南 相 馬 市 消 防 団	原町区団		1 (区団長 兼務)	1	8	11	32	63	245	361
	小高区団	1		1	4	11	20	21	91	149
	鹿島区団		1 (区団長 兼務)	1	5	14	24	23	256	324
	計	1	2	3	17	36	76	107	592	834
新地町消防団		1	1		4	6	16	21	208	257
飯舘村消防団		1	1		3	8	21	21	68	123
合 計		4	6	3	36	62	125	195	1,245	1,676

消 防 車 両 の 現 況

(令和7年4月1日現在)

種 別 市町村		水 槽 付 き ポンプ自動車	普 通 ポンプ自動車	小 型 動 力 付 車 積 載	小 型 動 力 付 車 積 載	広 報 車 等
相 馬 市			5	40	2	
南 相 馬 市	原 町 区	2	2	30	2	1
	小 高 区		2	28		
	鹿 島 区		3	23	2	1
	計	2	7	81	4	2
新 地 町			7	10	2	1
飯 舘 村			2	21	2	2
合 計		2	21	152	10	5

福島県消防協会相馬支部顧問

(令和7年4月1日現在)

役職名	氏名	在職名
顧問	高橋和司	福島県相馬地方振興局長
〃	伊藤英幸	南相馬警察署長
〃	小幡尚一	相馬警察署長
〃	志賀丈彦	元福島県消防協会相馬支部長
〃	但野安俊	元福島県消防協会相馬支部長
〃	佐藤光孝	元福島県消防協会相馬支部長
〃	荒利喜	元福島県消防協会相馬支部長
〃	荒忠夫	元福島県消防協会相馬支部長
〃	長澤初男	元福島県消防協会相馬支部長
〃	山見重信	前福島県消防協会相馬支部長

福島県消防協会相馬支部役員

(令和7年4月1日現在)

役職名	氏名	在職名
支部長	片岡芳廣	南相馬市消防団長
副支部長	佐藤弘	南相馬市消防団副団長 兼鹿島区団長
〃	鎌田重昭	相馬市消防団長
常務理事	五賀和広	相馬地方広域消防本部消防長
理事	藤田代一	南相馬市消防団副団長 兼原町区団長
監事	岡崎仁一	新地町消防団長
〃	川村仁	飯舘村消防団長

消防関係団体等の結成状況

(令和7年4月1日現在)

1 相馬地方

名 称	代 表 者 名	結成年月日	会 員 数
相馬地方女性消防隊連絡協議会	佐藤 妙子	S63. 10. 1	6
相馬地方消防設備協会	菅野 利男	S51. 4. 10	43
相馬地方防火安全協会	太田 利宗	H18. 6. 29	461

2 各市町村女性消防隊

名 称	隊 長 名	結成年月日	隊 員 数
相馬市女性消防隊	高坂あや子	S41. 10. 21	10,366
南相馬市女性消防隊	佐藤 妙子	H18. 1. 1	14,748
原町区隊	佐藤 妙子	S51. 9. 14	10,224
小高区隊	秋保 博子	S50. 10. 30	42
鹿島区隊	今野 勝子	S59. 2. 15	2,615
新地町女性防火クラブ	目黒 真弓	S59. 4. 1	2,926
飯舘村女性消防隊	今野 スイ子	S39. 4. 1	13

3 自主防災組織

(1) 結成状況

市 町 村 別	行 政 区 数	結成行政区数	結 成 率 (%)	
相馬市	76	75 (1)	98.7	
南相馬市	原町区	102	95 (10)	93.1
	小高区	39	39 (39)	100.0
	鹿島区	40	40 (1)	100.0
	小計	181	174	96.1
新地町	15	15	100.0	
飯舘村	20	20 (20)	100.0	
合 計	292	284	97.3	

※ 結成行政区数の () 内は休止中

(2)市町村別組織一覧

相馬市

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	細田地区自主防災自衛団	S63. 1. 3	39	台町地区自主防災会	H14. 7. 12
2	上古金自主防災会	H13. 4. 1	40	八幡地区防災会	H14. 8. 1
3	石上地区自主防災会	H13. 3. 11	41	中村西部第一区防災会	H14. 7. 22
4	相馬市椎木自治会	H13. 4. 14	42	松川地区防災会	H14. 8. 1
5	雇用促進住宅自主防災会	H13. 4. 15	43	馬場野防災会	H14. 8. 1
6	塚部防災会	H13. 4. 1	44	程田防災会	H14. 8. 1
7	鎗町地区自主防災会	H13. 5. 27	45	中村西部第2区防災会	H14. 7. 27
8	初野防災会	H13. 6. 15	46	山岸自主防災会	H14. 8. 1
9	荒井町自主防災会(中村西部5区)	H13. 6. 20	47	今田防災会	H14. 7. 31
10	袋町親交会自主防災会	H13. 6. 21	48	粟津防災会	H14. 8. 14
11	台行政区自主防災会	H13. 6. 27	49	物倉防災会	H14. 8. 18
12	岩子地区防災会	H13. 5. 1	50	大上防災会	H14. 8. 19
13	玉野地区自主防災会(四行政区)	H13. 8. 19	51	小田原防災会	H14. 8. 19
14	金谷原防災会	H13. 9. 1	52	並木防災会	H14. 8. 19
15	高松地区自主防災会	H13. 7. 8	53	中村西部第11区防災会	H14. 7. 15
16	黒木地域防災会	H13. 10. 19	54	中平防災会	H14. 8. 26
17	日下石防災会	H13. 4. 1	55	柏崎地区防災会	H14. 8. 5
18	立谷防災会	H13. 9. 30	56	新田防災会	H14. 9. 1
19	上立谷防災会	H13. 11. 1	57	百槻自治会防災会	H14. 10. 1
20	上赤木防災会	H13. 11. 1	58	坪ヶ迫自主防災会	H14. 9. 1
21	下赤木防災会	H13. 11. 1	59	北飯渕防災会	H14. 9. 14
22	柚木防災会	H13. 10. 8	60	南飯渕防災会	H14. 10. 1
23	獺庭地区防災会(磯部第1区)	H14. 2. 24	61	小野地区自主防災会	H14. 9. 15
24	立切防災会(磯部第1区)	H14. 3. 6	62	駅東中部5区防災会	H14. 10. 20
25	蒲庭地区防災会	H14. 3. 6	63	本笑防災会	H15. 1. 2
26	磯部第4区自主防災会	H14. 3. 7	64	刈敷田地区防災会	H15. 2. 23
27	成田地区自主防災会	H14. 1. 27	65	中村西部10区自主防災会	H15. 3. 30
28	向町防災組織	H14. 4. 1	66	中村西部第9区防災会	H15. 2. 16
29	大坪地区自主防災会	H14. 1. 16	67	和田地区防災会	H16. 9. 11
30	横川自主防災会	H14. 4. 1	68	駅前新和会自主防災会(中村西部5区)	H17. 9. 1
31	緑ヶ丘団地防災会	H14. 5. 1	69	中村西部6区自主防災会	H18. 9. 1
32	西部12区防災会	H14. 5. 20	70	中村西部8区防災会	H20. 7. 1
33	新沼・北小泉地区防災会	H14. 6. 20	71	北高野団地自主防災会	H30. 4. 1
34	富沢防災会	H14. 4. 1	72	南ノ入自主防災会	H31. 4. 19
35	須萱防災会	H14. 7. 1	73	中村西部第4区自主防災会	R 2. 4. 8
36	尾浜地区防災会	H14. 7. 1	74	中村東部第8区自主防災会	R 5. 4. 13
37	北原釜地区防災会	H14. 7. 1	75	明神前自主防災会	R 6. 3. 14
38	南原釜地区防災会	H14. 7. 1			

※網掛けは解散若しくは活動休止等

南相馬市（原町区）

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	小 沢 防 災 会	S62. 3. 1	39	上 北 高 平 三 防 災 会	H14. 6. 1
2	深 野 防 災 会	H12. 4. 1	40	雲 雀 ヶ 原 一 防 災 会	H14. 7. 1
3	栄 町 一 防 災 会	H12. 5. 11	41	陣 ヶ 崎 一 防 災 会	H14. 7. 1
4	馬 場 防 災 会	H12. 8. 1	42	下 高 平 防 災 会	H14. 8. 25
5	泉 防 災 会	H13. 4. 22	43	上 渋 佐 防 災 会 ※下渋佐防災会と統合	H14. 9. 10
6	二 見 町 一 防 災 会	H13. 4. 1			
7	雲 雀 ヶ 原 三 防 災 会	H13. 4. 1	44	金 沢 防 災 会	H14. 10. 5
8	青 葉 町 防 災 会	H13. 4. 1	45	高 見 町 防 災 会	H14. 12. 1
9	大 甕 上 防 災 会	H13. 6. 1	46	長 野 防 災 会	H15. 3. 16
10	大 木 戸 一 防 災 会	H13. 9. 1	47	橋 本 町 四 防 災 会	H15. 4. 1
11	仲 町 一 防 災 会	H13. 11. 1	48	西 町 防 災 会	H15. 4. 1
12	東 町 二 防 災 会	H13. 12. 1	49	北 原 防 災 会	H15. 4. 1
13	大 甕 下 防 災 会	H14. 3. 3	50	二 見 町 二 防 災 会	H15. 4. 1
14	石 神 防 災 会	H14. 4. 1	51	北 泉 防 災 会	H15. 4. 1
15	押 釜 防 災 会	H14. 4. 1	52	上 町 防 災 会	H15. 4. 1
16	大 谷 防 災 会	H14. 4. 1	53	上 高 平 二 防 災 会	H15. 4. 1
17	仲 町 三 防 災 会	H14. 4. 1	54	下 太 田 防 災 会	H15. 4. 1
18	下 北 高 平 防 災 会	H14. 4. 1	55	橋 本 町 三 防 災 会	H15. 4. 1
19	江 井 防 災 会	H14. 4. 1	56	南 町 三 防 災 会	H15. 4. 1
20	桜 井 町 一 防 災 会	H14. 4. 1	57	益 田 防 災 会	H15. 4. 1
21	萱 浜 防 災 会	H14. 4. 1	58	旭 町 二 防 災 会	H15. 4. 30
22	雫 防 災 会	H14. 4. 1	59	南 町 二 防 災 会	H15. 5. 15
23	北 萱 浜 防 災 会	H14. 4. 1	60	北 新 田 防 災 会	H15. 5. 30
24	小 浜 防 災 会	H14. 4. 1	61	高 倉 防 災 会	H15. 7. 1
25	日 の 出 町 防 災 会	H14. 4. 1	62	東 町 一 防 災 会	H15. 7. 13
26	大 原 防 災 会	H14. 4. 1	63	錦 町 二 防 災 会	H15. 8. 1
27	雲 雀 ヶ 原 二 東 防 災 会	H14. 4. 1	64	北 長 野 防 災 会	H15. 10. 1
28	雲 雀 ヶ 原 二 西 防 災 会	H14. 4. 1	65	仲 町 二 防 災 会	H15. 11. 1
29	鶴 谷 防 災 会	H14. 4. 1	66	堤 谷 防 災 会	H16. 1. 1
30	中 太 田 防 災 会	H14. 4. 1	67	上 北 高 平 一 防 災 会	H16. 1. 19
31	上 太 田 防 災 会	H14. 4. 1	68	上 北 高 平 二 防 災 会	H16. 1. 28
32	本 陣 前 三 防 災 会	H14. 4. 1	69	上 高 平 一 防 災 会	H16. 2. 1
33	高 一 防 災 会	H14. 4. 14	70	信 田 沢 防 災 会	H16. 2. 1
34	高 二 防 災 会	H14. 4. 14	71	牛 越 防 災 会	H16. 4. 1
35	国 見 町 一 防 災 会	H14. 5. 21	72	南 町 一 行 政 区 防 災 会	H16. 4. 16
36	国 見 町 二 防 災 会	H14. 5. 21	73	大 木 戸 二 防 災 会	H16. 6. 30
37	国 見 町 三 防 災 会	H14. 5. 21	74	下 江 井 防 災 会	H16. 8. 17
38	国 見 団 地 一 防 災 会	H14. 5. 21	75	矢 川 原 防 災 会	H16. 10. 1

※網掛けは解散若しくは活動休止等

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
76	旭 町 一 防 災 会	H17. 4. 1	86	北 町 二 行 政 区 防 災 会	H20. 7. 1
77	橋 本 町 二 防 災 会	H17. 4. 1	87	本 町 一 丁 目 防 災 会	H20. 9. 1
78	桜 井 町 二 防 災 会	H17. 4. 1	88	小 木 迫 自 主 防 災 会	H21. 4. 1
79	小 川 町 一 自 主 防 災 会	H17. 4. 1	89	陣ヶ崎 二 区 防 災 会	H21. 4. 1
80	橋 本 町 一 丁 目 自 主 防 災 会	H17. 4. 15	90	本 町 二 区 防 災 会	H21. 4. 1
81	片 倉 自 主 防 災 会	H19. 3. 1	91	南 町 四 防 災 会	H21. 4. 1
82	三 島 町 一 防 災 会	H19. 4. 14	92	本 町 三 防 災 会	H21. 10. 1
83	三 島 町 二 防 災 会	H19. 4. 14	93	本 陣 前 二 防 災 会	H26. 5. 29
84	錦 町 一 区 自 主 防 災 会	H20. 4. 1	94	牛 来 行 政 区 防 災 会	H27. 10. 1
85	北 町 一 防 災 会	H20. 6. 1	95	本 陣 前 一 防 災 会	R 5. 10. 6

南相馬市（小高区）

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	塚 原 地 区 防 災 会	H 2. 4. 1	21	大 田 和 防 災 会	H14. 4. 1
2	一 区 防 災 会	H13. 4. 1	22	南 鳩 原 地 区 防 災 会	H14. 4. 1
3	二 区 防 災 会	H12. 11. 1	23	金 谷 防 災 会	H14. 4. 1
4	三 区 防 災 会	H12. 11. 1	24	摩 辰 防 災 会	H14. 4. 1
5	四 区 防 災 会	H12. 9. 1	25	女 場 自 主 防 災 会	H14. 4. 1
6	下 蛭 沢 防 災 会	H13. 9. 1	26	飯 崎 行 政 区 防 災 会	H14. 6. 1
7	五 区 防 災 会	H13. 9. 1	27	福 岡 防 災 会	H14. 6. 1
8	下 浦 防 災 会	H13. 11. 1	28	小 高 防 災 会	H14. 6. 1
9	泉 沢 防 災 会	H13. 11. 1	29	羽 倉 防 災 会	H14. 6. 1
10	岡 田 行 政 区 自 主 防 災 会	H13. 12. 1	30	大 富 防 災 会	H14. 8. 1
11	浦 尻 防 災 会	H14. 1. 1	31	角 間 沢 自 主 防 災 会	H14. 8. 1
12	行 津 防 災 会	H14. 1. 1	32	角 部 内 防 災 会	H14. 9. 1
13	小 屋 木 防 災 会	H14. 2. 1	33	大 井 防 災 会	H14. 9. 1
14	川 房 行 政 区 防 災 会	H14. 2. 1	34	村 上 自 主 防 災 会	H14. 9. 1
15	片 草 防 災 会	H14. 3. 1	35	上 蛭 沢 防 災 会	H14. 9. 10
16	吉 名 防 災 会	H14. 4. 1	36	川 原 田 自 主 防 災 会	H14. 11. 1
17	北 鳩 原 防 災 会	H14. 4. 1	37	井 田 川 行 政 区 自 主 防 災 会	H14. 10. 1
18	小 谷 防 災 会	H14. 4. 1	38	下 耳 谷 自 主 防 災 会	H15. 6. 1
19	上 浦 防 災 会	H14. 4. 1	39	上 耳 谷 自 主 防 災 会	H15. 9. 1
20	神 山 行 政 区 防 災 会	H14. 4. 1			

南相馬市（鹿島区）

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	小 山 田 防 災 会	H12. 6. 30	7	大 谷 地 防 災 会	H12. 9. 13
2	南 屋 形 防 災 会	H12. 7. 20	8	寺 内 防 災 会	H12. 9. 27
3	江 垂 防 災 会	H12. 8. 21	9	北 海 老 防 災 会	H12. 10. 1
4	上 寺 内 防 災 会	H12. 9. 1	10	車 川 防 災 会	H12. 10. 13
5	塩 崎 防 災 会	H12. 9. 1	11	永 田 防 災 会	H12. 10. 18
6	南 柚 木 防 災 会	H12. 9. 1	12	白 坂 防 災 会	H12. 10. 20

※網掛けは解散若しくは活動休止等

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
13	御 山 防 災 会	H12.12.1	27	町 三 区 防 災 会	H13.9.4
14	檜 原 防 災 会	H12.12.23	28	横 手 防 災 会	H13.10.1
15	上 栢 窪 防 災 会	H12.12.24	29	牛 河 内 防 災 会	H13.11.1
16	川 子 防 災 会	H12.12.26	30	山 下 防 災 会	H13.11.7
17	北 屋 形 防 災 会	H13.1.24	31	岡 和 田 防 災 会	H13.12.1
18	栢 窪 防 災 会	H13.3.25	32	町 四 区 防 災 会	H14.3.22
19	角 川 原 防 災 会	H13.4.1	33	西 町 防 災 会	H14.4.1
20-1	北 右 田 防 災 会	H13.6.1	34	烏 崎 防 災 会	H14.4.1
20-2	南 右 田 防 災 会	H13.6.21	35	新 町 防 災 会	H14.4.10
21	台 田 中 防 災 会	H13.6.11	36	町 一 区 防 災 会	H14.4.10
22	大 内 防 災 会	H13.7.5	37	町 二 区 防 災 会	H14.7.29
23	永 渡 防 災 会	H13.8.1	38	小 島 田 防 災 会	H14.8.6
24	小 池 防 災 会	H13.8.1	39	三 里 防 災 会	H28.5.1
25	南 海 老 防 災 会	H13.9.1	40	西 川 原 団 地 防 災 会	H28.12.7
26	浮 田 防 災 会	H13.9.2			

新地町

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	第 5 行政 区 自 主 防 災 会	H14.3.4	5-2	第 7 行政 区 自 主 防 災 会 (中 島 地 区)	H14.7.15
2	第 14 行政 区 自 主 防 災 会	H14.3.5	9	第 12 行政 区 自 主 防 災 会	H14.8.12
3	第 9 行政 区 自 主 防 災 会	H14.4.12	10	第 6 行政 区 自 主 防 災 会	H14.8.30
4	第 15 行政 区 自 主 防 災 会	H14.4.23	11	第 3 行政 区 自 主 防 災 会	H14.10.4
5-1	第 7 行政 区 自 主 防 災 会 (町 地 区)	H14.5.17	12	第 10 行政 区 自 主 防 災 会	H14.10.28
6	第 11 行政 区 自 主 防 災 会	H14.5.25	13	第 13 行政 区 自 主 防 災 会	H14.10.28
7	第 8 行政 区 自 主 防 災 会	H14.6.6	14	第 2 行政 区 自 主 防 災 会	H14.10.29
8	第 4 行政 区 自 主 防 災 会	H14.7.1	15	第 1 行政 区 自 主 防 災 会	H15.2.13

飯館村

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	宮 内 防 災 会	H12.9.3	11	八 木 沢 ・ 芦 原 防 災 会	H13.7.1
2	小 宮 防 災 会	H12.9.10	12	20 区 防 災 会	H13.8.5
3	飯 樋 町 防 災 会	H13.3.25	13	上 飯 樋 防 災 会	H14.3.24
4	深 谷 防 災 会	H13.3.25	14	蕨 平 防 災 会	H14.4.1
5	伊 丹 沢 防 災 会	H13.4.17	15	草 野 防 災 会	H14.4.1
6	前 田 防 災 会	H13.4.19	16	大 久 保 ・ 外 内 防 災 会	H14.4.1
7	長 泥 防 災 会	H13.4.1	17	大 倉 防 災 会	H14.4.1
8	関 根 ・ 松 塚 防 災 会	H13.5.27	18	11 区 防 災 会	H14.4.1
9	比 曾 防 災 会	H13.6.3	19	臼 石 自 主 防 災 会	H14.7.2
10	関 沢 防 災 会	H13.6.3	20	佐 須 自 主 防 災 会	H14.10.14

※網掛けは解散若しくは活動休止等

市町村別消防クラブ等結成状況

(令和7年4月1日現在)

市町村別		幼年消防 ク ラ ブ	少年消防 ク ラ ブ	女性消防隊 女性防火クラブ	計
相 馬 市		435 (9)	255 (2)	10,366 (1)	11,056 (12)
南 相 馬 市	原町区	609 (8)	1,270 (5)	10,224 (1)	12,103 (14)
	小高区	52 (1)	0 (0)	42 (1)	94 (2)
	鹿島区	114 (3)	146 (2)	2,615 (1)	2,875 (6)
	計	775 (12)	1,416 (7)	12,881 (3)	15,072 (22)
新 地 町		102 (3)	128 (3)	2,926 (1)	3,156 (7)
飯 舘 村		38 (1)	44 (1)	13 (1)	95 (3)
計		1,350 (25)	1,843 (13)	26,186 (6)	29,379 (44)

※ () は組織数を示す。

令和 6 年版

消 防 年 報

発 行 令和 7 年 6 月

発行者

〒 975 - 0033

福島県南相馬市原町区高見町一丁目 272 番地
相馬地方広域消防本部

T E L 0244 - 22 - 4164

F A X 0244 - 22 - 5790

《 編集 》 総 務 課
